

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第195集

宮の上遺跡群 宮の上遺跡Ⅲ・Ⅳ

長野県佐久市横和宮の上遺跡発掘調査報告書

2011

奥村茂貴・黒沢忠雄
佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は奥村茂貴、黒沢忠雄による平成22年度長屋建住宅建築事業に伴う宮の上遺跡群宮の上遺跡Ⅲ・Ⅳの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市瀬戸771-2 奥村 茂貴
佐久市塚原993 黒沢 忠雄
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 土屋 盛夫
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 宮の上遺跡群 宮の上遺跡Ⅲ・Ⅳ (YMMⅢ・Ⅳ)
佐久市横和字宮之上306-7、306-6、306-8
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略称は以下の通りである。
H－竪穴住居址 F－掘立柱建物址 P－ピット D－土坑
- 2 スクリーントーン表示は以下の通りである。



- 3 挿図の縮尺は以下の通りである。
遺構－竪穴住居址・掘立柱建物址・ピット・土坑 1/80
遺物－土器・石製品 1/4 土器(墨書破片) 1/2 古銭・石鏃 1/1
- 4 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 5 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水系高を標高とした。
- 6 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。
- 7 遺物表中の [] は推定値、〈 〉 は残存値を表す。

目 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 立地と経過及び周辺遺跡	1
第2節 調査体制	1
第3節 発見された遺構と遺物	2
第Ⅱ章 遺跡の環境	2
第1節 自然環境	2
第2節 基本層序	2
第Ⅲ章 遺構と遺物	3
第1節 竪穴住居址	3
第2節 掘立柱建物址	11
第3節 ピット	12
第4節 グリッド	14

写真図版

抄録

第 I 章 発掘調査の経緯

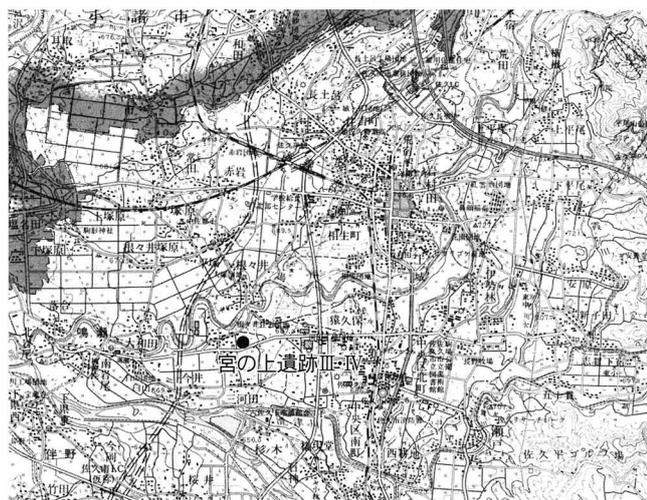
第 1 節 立地と経過及び周辺遺跡

宮の上遺跡群は、浅間の麓から南流してきた湯川が岩村田市街地の南で流れを西方に変えた左岸段丘上に展開する弥生時代から平安時代を中心とする複合遺跡で、標高は679m内外を測る。

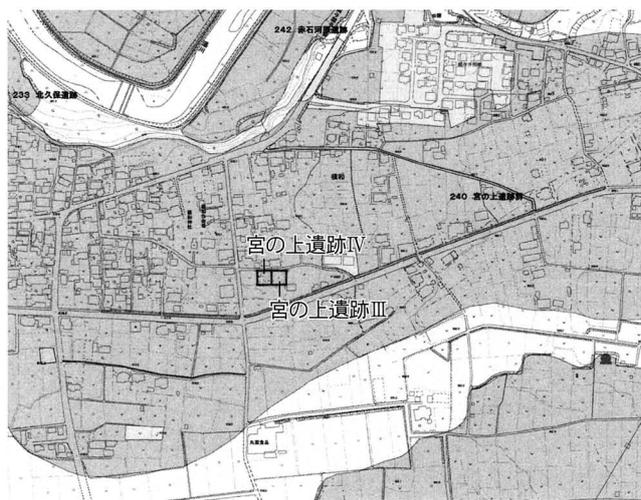
周辺の遺跡状況を見ると、北方の諏訪分遺跡、東方の仲田遺跡・寺畑遺跡、西方の寄塚遺跡群・今井西原遺跡・白山遺跡群、南方に今井宮の前遺跡・今井城跡・中原遺跡群等が存在するが、地形から見た遺跡の分布状況は、台地の内陸部では希薄となり、台地を分断する北の湯川及び南の千曲川・滑津川といった河川に近い台地端部に集中する傾向が見受けられる。この湯川と千曲川・滑津川に分断された台地上は浅間第一軽石流の堆積が認められる最南端にあたり、水はけが良く、河川との比高差もあり、内陸部は生活用水に乏しい地域であった。現在こそ広く水田として利用されているが、これも江戸時代初頭元和年間(1615～1623)に市川五郎兵衛によって補完完成したと伝えられる三河田用水が開いてからのこととされている。このため、古代における生活の中心は河川にほど近い台地端部にかたよっていたと考えられる。

周辺地域で実際に行われた調査として、昭和56年に横和団地造成に伴い行われた試掘調査によって、弥生～平安時代の住居址100軒以上を確認した寄塚遺跡群及び寄塚古墳が所在する。近年では道路改良工事に伴い、平成19～21年に古墳時代前期～中世・近世に至る遺構・遺物を調査した下原遺跡、平成17年に弥生時代中期～古墳時代前期の遺構、弥生時代中期～平安時代の遺物を調査した寄塚遺跡が所在する。また北西方向の一段低い湯川の段丘上には、平成4年に行われた宅地造成事業によって弥生時代後期後半の住居址43軒、古墳～平安時代の住居址を調査した根々井芝宮遺跡が所在する。更に西方には平成6・7年に道路建設に先立つ調査によって、縄文時代草創期に位置づけられる爪形文土器を出土した寺畑遺跡群が、一段低い段丘上には古墳時代前期～平安時代の遺構及び奈良時代の銅鏡、寺の文字を持つ墨書土器等の遺物が出土した仲田遺跡が調査されている。また、今回調査対象となった宮の上遺跡群内では、調査区の南を東西方向に通る道路の歩道設置工事に先立つ宮の上遺跡Ⅰ・Ⅱの調査が行われ、平安時代の住居址等が発見されている。

今回、奥村茂貴、黒沢忠雄による長屋建住宅建築工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため平成23年2月に試掘調査を行った。結果、住居址、ピット等の遺構及び土器(土師器・須恵器)が認められたことから、開発側と協議を行い、遺跡が破壊される建物部分について遺跡の記録保存を目的とした発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施した。



宮の上遺跡群 宮の上遺跡位置図 (1:100,000)



調査区位置図 (1:10,000)

第 2 節 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	土屋 盛夫		
事務局	社会教育部長	工藤 秀康 (平成22年度)	伊藤 明弘 (平成23年度)		
	社会教育部次長	藤牧 浩 (平成23年度)			
	文化財課長	森角 吉晴 (平成22年度)	吉澤 隆 (平成23年度)		
	文化財調査係長	三石 宗一			
	文化財調査係専門員	林 幸彦 須藤 隆司	小林 眞寿 羽毛田卓也		

	富沢 一明 (平成23年度)	上原 学 (平成23年度)
文化財調査係	並木 節子 富沢 一明 (平成22年度)	上原 学 (平成22年度)
	井出 泰章 出澤 力 (平成22年度)	
調査主任	佐々木宗昭 森泉 かよ子	
調査担当者	上原 学	
調査員	浅沼勝男 安藤孝司 江原富子 小井戸秀元 土屋武士 中嶋フクジ	
	中條勝良 比田井久美子 日向昭次 武者幸彦 油井重明	
	横尾敏雄 依田三男 渡辺長子 渡辺学	

第3節 発見された遺構と遺物

遺構	竪穴住居址	5軒	平安時代	遺物	土師器 (坏・皿・甕・高坏・碗・鉢)	羽口
	掘立柱建物址	1棟	平安時代		須恵器 (坏・高台付坏・甕・壺)	
	ピット		平安時代		石製品 (擦り石・敲き石・鎌)	
					灰釉陶器 (皿・碗)	古銭 (近世)

第二章 遺跡の環境

第1節 自然環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に流れる。

この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く長い年月の間に深く削り取られ、浅間の麓から放射状に幾筋もの浸食谷 (田切り地形) を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主で地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。

今回調査を実施した宮の上遺跡は、北部台地の南端、湯川と千曲川・滑津川に挟まれた標高679m内外の地域に位置する。

第2節 基本層序

佐久市北部地域は、現在の浅間山が形成される以前 2,800mを超える火山であった黒斑火山が山体を吹き飛ばす大噴火の後、現在浅間山の中心を成す前掛山に成長する際に降下火山灰及び軽石流が大きく2度に渡り堆積し形成された。(下層から佐久市北部地域の第一軽石流・P1、佐久市北端地域の第二軽石流・P2) その厚さは20mを超え、現在はこの堆積した黄褐色土を表土である黒褐色土が覆っている。

本調査区一帯は湯川の段丘端部にあり、浅間軽石流が堆積する南端地域にあたり、基本的には黒褐色の表土直下に軽石流あるいは軽石流の二次堆積である黄褐色のややしまりのあるロームと砂質ロームが層状に厚く堆積している。

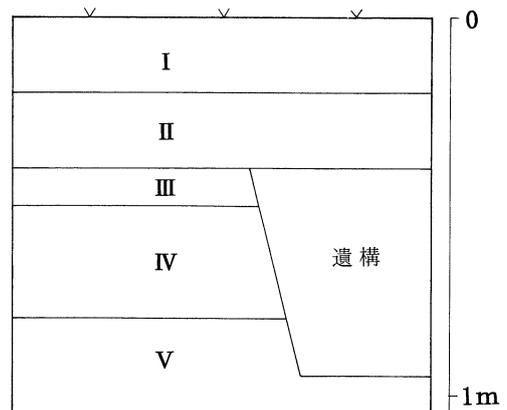
I層は層厚20cmを測る暗褐色土の耕作土である。

II層は耕作の影響を受けていない黒褐色土の表土である。

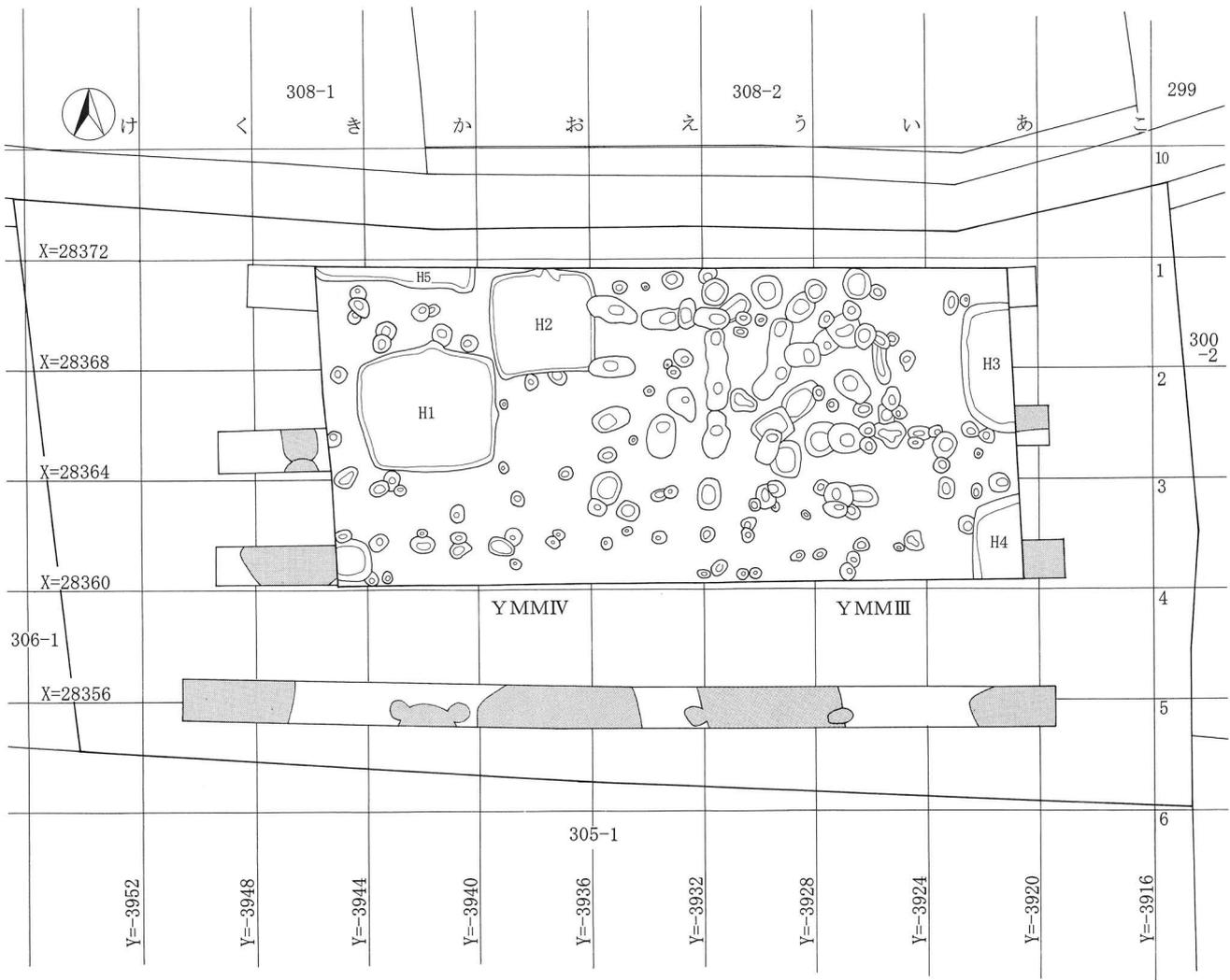
III層は層厚10cm内外を測る表土とロームの中間に位置する暗褐色の漸位層で、僅かに遺構の掘り込みが確認できる。

IV層は層厚30cm内外を測る黄褐色ロームである。

V層は層厚30cm以上を測る厚く堆積した黄褐色砂質土である。遺構確認はIII層の中間付近及びIV層上面で行った。



基本層序模式図



調査遺構・試掘トレンチ配置図

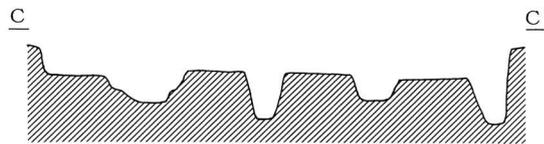
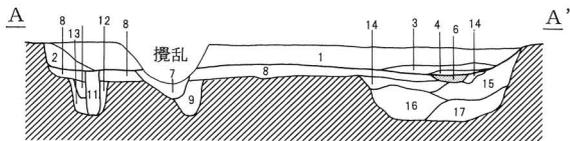
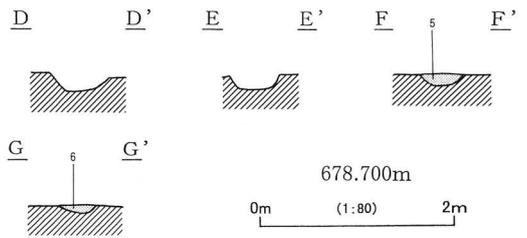
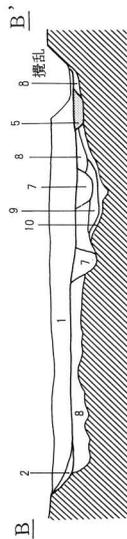
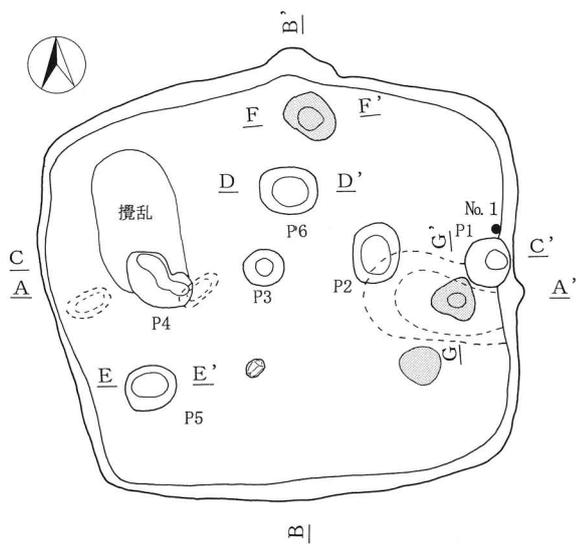
第三章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址 (H)

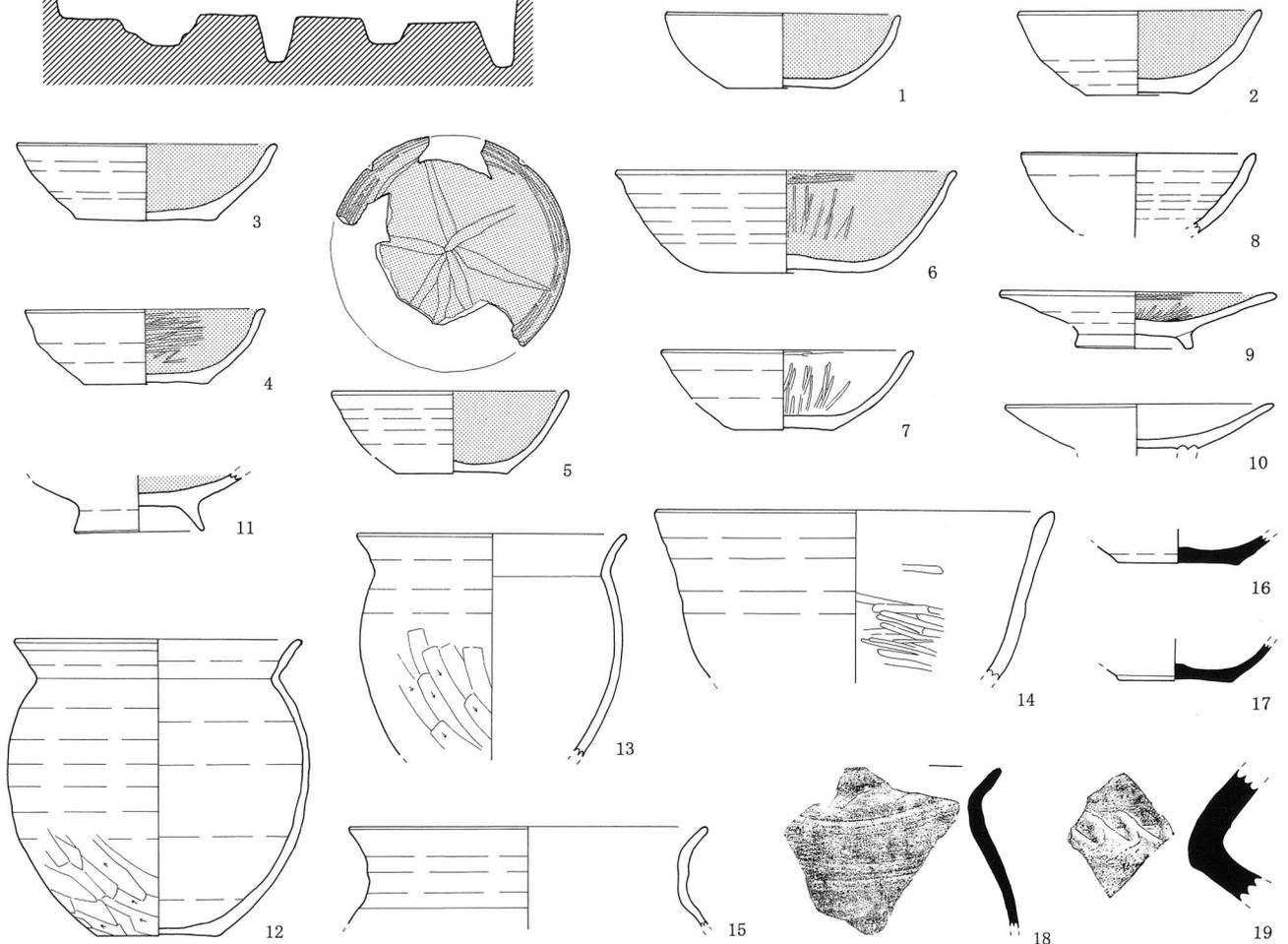
H1号住居址

遺構は調査区西の、か-2グリッドに位置し、一部土坑状の攪乱に破壊されている。規模は東西4.8m、南北4.2m、確認面から床面までの深さは30cmを測る。平面形態は隅丸の方形である。床面はやや凹凸感はあるがほぼ平坦で、表面は土間状に硬質である。壁際の溝は認められなかった。カマドは破壊され、ほとんど原型を残していなかったが、火床の存在から北壁と東壁の2カ所に存在していたと考えられる。東カマドは北側のカマド使用時の支柱穴と思われるピットに破壊されていることから、東カマド使用後に、北カマドに変更された住居の建て替えもしくは改築があったと推察される。ピットは全体で6個確認でき、北カマド使用時はP1・3・4のいずれかを使用し、東カマド使用時のピットは確定できなかった。掘方は中央付近は5cm内外と浅く、ほぼ貼り床のみであるが、周辺部は20cmほど掘り込まれ、極暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏・皿・碗・鉢・長胴甕・轆轤甕、須恵器の坏・甕、灰釉陶器の皿・碗、擦り石、敲き石及び時期は古くなるが、混入遺物として黒曜石製の石鎌が出土した。土器（土師器・須恵器）の表面には墨で文字が書かれたものが出土し、「木」と読みとれるものが多く認められた。H3号住居址からも同様の墨書が出土していることから、本住居址周辺の集落に暮らしていた人々にとって、「木」という文字に特別な意味があったのかもしれない。

本住居址の時期は、土器の特徴から9世紀代と考えられる。



- | | |
|---------|-------------------------------|
| 1 黒褐色土 | (10YR2/3) 炭化物、軽石、ローム、砂粒。 |
| 2 暗褐色土 | (10YR3/3) 炭化物、軽石、ローム、砂粒やや多い。 |
| 3 暗赤褐色土 | (5YR3/2) 灰、焼土少量。 |
| 4 暗赤褐色土 | (5YR3/6) 焼土多い。 |
| 5 明赤褐色土 | (2.5YR5/6) 焼土層。 |
| 6 赤褐色土 | (2.5YR4/8) 焼土層。 |
| 7 黒褐色土 | (10YR2/3) ローム、砂、軽石。 |
| 8 極暗褐色土 | (7.5YR2/3) しまりややあり。 |
| 9 暗褐色土 | (7.5YR3/3) ローム、砂、軽石。 |
| 10 暗褐色土 | (10YR3/4) ローム、砂、軽石多い。 |
| 11 黒褐色土 | (10YR2/2) ローム、砂。 |
| 12 黒褐色土 | (10YR2/3) ローム、砂。 |
| 13 褐色土 | (10YR4/4) 砂主体。 |
| 14 暗褐色土 | (10YR3/3) ローム、焼土、炭化物、軽石。 |
| 15 褐色土 | (10YR4/4) 砂、ローム多量、しまりなし。 |
| 16 黒褐色土 | (10YR2/3) ローム、砂多い、軽石。 |
| 17 暗褐色土 | (10YR3/4) 砂やや多い、ローム、軽石、しまりなし。 |



H 1 号住居址遺構・遺物実測図



H 1 号住居址遺物実測図

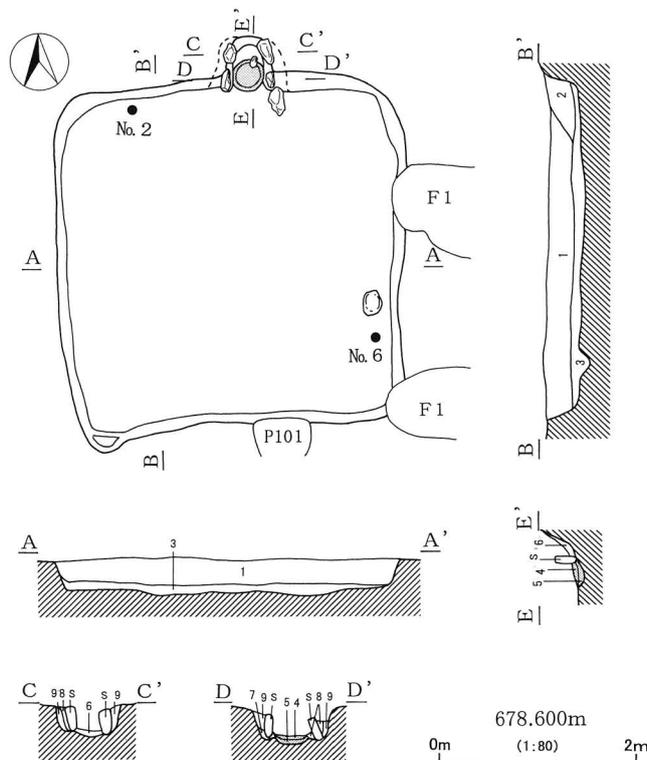
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	12.4	4.1	5.6	ロクロナデ、内面黒色処理・ミガキ、底部ヘラケズリ。	100	外面10YR7/4にぶい黄橙色
2	土師器	坏	[12.8]	4.5	5.7	ロクロナデ、内面黒色処理・ミガキ、底部回転糸切り。	70	外面5YR6/4にぶい橙色
3	土師器	坏	[13.8]	7.4	4.2	ロクロナデ、内面黒色処理・ミガキ、底部回転糸切り。	65	外面7.5YR7/4にぶい橙色
4	土師器	坏	[12.6]	[6.6]	4	ロクロナデ、内面黒色処理・ミガキ、底部回転糸切り。	40	外面2.5YR5/6明赤褐色
5	土師器	坏	[12.6]	6	4.4	ロクロナデ、内面黒色処理・太い放射状暗文、底部回転糸切り。	55	外面5YR6/6橙色
6	土師器	坏	[18]	6.6	5.5	ロクロナデ、内面放射状暗文風ミガキ、口縁部横ミガキ、黒色処理、底部回転糸切り、内面太い放射状暗文	40	外面5YR6/6橙色
7	土師器	坏	[13.3]	5.3	4.3	ロクロナデ、底部回転糸切り、内面ミガキ。	35	外面5YR6/6橙色
8	土師器	坏	[12.3]	—	—	ロクロナデ。	30	外面7.5YR8/2灰白色
9	土師器	皿	[14.6]	6.3	3	ロクロナデ・黒色処理、内面放射状暗文風ミガキ・口縁部横ミガキ、底部回転糸切り後高台貼り付け。	50	内外面黒色
10	土師器	皿	[14.1]	—	—	ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り、高台剥かれ。	30	外面7.5YR6/6橙色
11	土師器	碗	—	6.8	—	内面放射状ミガキ・黒色処理、底部回転糸切り後高台貼り付け。	40	外面7.5YR5/4にぶい褐色
12	土師器	小型甕	[15.2]	[6.6]	15.9	口縁横ナデ、外面上部ロクロナデ・下部ヘラ削り、内面ヘラナデ、底部回転糸きり。	30	外面7.5YR5/3にぶい褐色
13	土師器	小型甕	[14.4]	—	(11.9)	口縁横ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。	25	外面7.5YR6/3にぶい褐色
14	土師器	鉢	[21.1]	—	—	口縁ロクロナデ、内面ミガキ。	口縁破片	外面5YR5/4にぶい赤褐色
15	土師器	甕	[19]	—	—	口縁ロクロナデ。	口縁破片	外面5YR5/4にぶい赤褐色
16	須恵器	坏	—	6.2	—	底部回転糸切り。	底部	外面7.5YR4/1褐灰色
17	須恵器	坏	—	6.2	—	底部回転糸切り。	底部	外面7.5YR4/1褐灰色
18	須恵器	甕	—	—	—	ロクロナデ、外面自然釉薬付着	口縁破片	外面5YR3/3暗赤褐色

H 1 号住居址遺物観察表

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
19	須恵器	甕	—	—	—	ロクロナデ、外面頸部へラ調整。	頸部破片	外面2.5YR2/2極暗赤褐色
20	須恵器	甕	—	[16.2]	—	ロクロナデ。	胴部～底部	外面N6/0灰色
21	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き、内面ナデ。	胴部破片	外面10YR4/1褐色
22	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き、内面ナデ。	胴部破片	外面10R3/2暗赤褐色
23	灰釉陶器	皿	[15.5]	7.2	3.5	ロクロナデ、灰釉、底部回転糸切り後三日月高台貼り付け。	30	外面5Y7/4浅黄色
24	灰釉陶器	碗	[15.4]	—	—	ロクロナデ、灰釉。	口縁破片	外面5Y7/1灰白色
25	土師器	坏	[13.4]	5.9	4.1	ロクロナデ、内面放射状暗文風ミガキ・口縁部横ミガキ・黒色処理、底部回転糸切り。[木]墨書あり。	50	外面5YR7/4こぶい橙色
26	土師器	坏	[16.2]	—	—	ロクロナデ、内面黒色処理、ミガキ。外面墨書。	口縁～体部破片	外面5YR6/6褐色
27	土師器	坏	—	—	—	ロクロナデ、外面[木]墨書あり。	口縁～体部破片	外面5YR6/4こぶい橙色
28	土師器	坏	—	—	—	ロクロナデ、内面黒色処理、ミガキ、外面[木]?墨書あり。	口縁～体部破片	外面5YR6/4こぶい橙色
29	土師器	坏	—	—	—	ロクロナデ、内面黒色処理・ミガキ、外面[木]墨書あり。	体部破片	外面5YR6/3こぶい橙色
30	土師器	坏	—	—	—	ロクロナデ、内面黒色処理・ミガキ、外面[木]?墨書あり。	体部～底部破片	外面7.5YR5/2灰褐色
31	土師器	坏	—	—	—	ロクロナデ、内面黒色処理・ミガキ、外面不明墨書あり。	体部破片	外面5YR6/4こぶい橙色
32	土師器	坏	—	—	—	ロクロナデ、内面黒色処理・ミガキ、外面不明墨書あり。	口縁破片	外面5YR6/4こぶい橙色
33	土師器	坏	—	—	—	ロクロナデ、内面黒色処理・ミガキ、外面不明墨書あり。	体部～底部破片	外面5YR6/6褐色
34	土師器	坏	—	—	—	ロクロナデ、内面黒色処理・ミガキ、外面墨書あり。	体部破片	外面2.5YR6/6褐色
35	土師器	坏	—	—	—	内面黒色処理・ミガキ、外面墨書あり。	体部破片	外面5YR6/6褐色
36	土師器	坏	—	—	—	内面剥離、外面墨書あり。	体部破片	外面5YR7/4こぶい橙色
37	土師器	坏	—	—	—	内面黒色処理・ミガキ、外面墨書あり。	体部破片	外面5YR6/6褐色
38	石製品	擦り石	長径10	短径9.5	厚さ4.2	表面磨り痕。	—	重量66.76g
39	石製品	敲石	長さ18.1	幅7.3	厚さ6.0	先端部敲打痕。	—	重量1148.63g
40	石製品	石鏃	長さ2.9	幅1.8	厚さ0.6	無茎鏃、黒曜石製。	—	重量1.7g

H 1 号住居址遺物観察表

H 2 号住居址

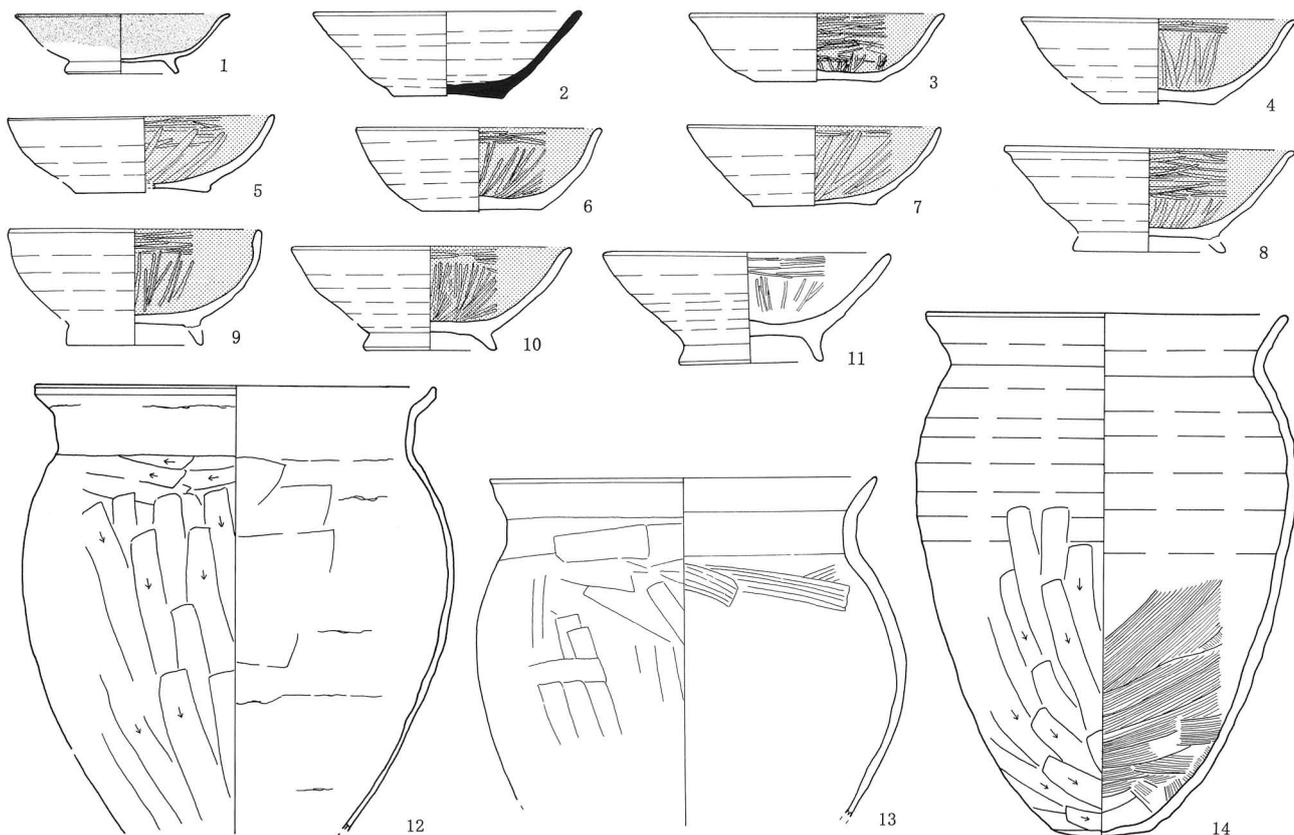


遺構は調査区の北側、おー1グリッドに位置し、一部掘立柱建物址のピットに破壊されている。規模は東西3.4m、南北3.4m、確認面から床面までの深さは30cmを測る。平面形態は方形である。床面は薄くやや堅い生活面が認められるが、H 1 号住居址ほどしっかりとした土間状の床面ではなかった。壁際の溝及び柱穴は確認できなかった。カマドは北壁の中央に構築され、両袖に使用された石材及び火床、調理時に土器の落下を防ぐ支脚石が残存していた。カマドの構築上の特徴としては本体が住居内に構築されるものではなく、大半が壁外に張り出している。火床には5cm厚の焼土がほぼ円形に堆積していた。掘方は全体的に10cm掘り込まれており、やや締まりのある暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・甕・灰釉陶器・碗が出土した。土器の特徴から9世紀と考えられる。

- | | | | |
|-------------------|----------------|--------------------|-----------------|
| 1 黒褐色土 (10YR2/3) | 炭化物、軽石、ロ-ム、砂粒。 | 6 極暗赤褐色土 (5YR2/4) | 焼土、灰。 |
| 2 黒褐色土 (10YR2/2) | 炭化物、軽石、ロ-ム、砂粒。 | 7 極暗褐色土 (7.5YR2/3) | 焼土少量。 |
| 3 暗褐色土 (10YR3/3) | しまりややあり。(床面) | 8 極暗赤褐色土 (5YR2/3) | 粘土層。熱により赤みを帯びる。 |
| 4 暗赤褐色土 (5YR3/6) | 焼土層。(火床) | 9 にぶい赤褐色土 (5YR4/3) | 粘土、焼土。 |
| 5 赤褐色土 (2.5YR4/6) | 焼土層。(火床) | | |

H 2 号住居址実測図



H 2 号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	灰釉陶器	碗	[11.1]	5.9	3.2	ロクロナデ、底部回転糸切り後高台貼り付け、三日月高台、釉薬つけ掛け。	40	外面7.5Y7/1灰白色
2	須恵器	坏	14	5.6	4.5	ロクロナデ、底部回転糸切り。	60	外面7.5Y7/2灰白色
3	土師器	坏	[13.4]	[6.4]	3.6	ロクロナデ、内面放射状暗文風ミガキ・口縁部横ミガキ・黒色処理、底部回転糸切り。	50	外面7.5YR7/3にぶい橙色
4	土師器	坏	[14.2]	5.8	4.5	ロクロナデ、内面放射状暗文風ミガキ・口縁部横ミガキ・黒色処理、底部回転糸切り。	50	外面7.5YR6/6橙色
5	土師器	坏	[13.8]	6.9	4	ロクロナデ、内面放射状暗文風ミガキ・口縁部横ミガキ、底部回転糸切り。	65	外面7.5YR5/4にぶい褐色
6	土師器	坏	12.9	6.2	4.4	ロクロナデ、内面放射状暗文風ミガキ・口縁部横ミガキ・黒色処理、底部回転糸切り、口縁部炭化物付着。	口縁部一部欠損	外面5YR6/6橙色
7	土師器	坏	13.3	6.4	4.2	ロクロナデ、内面放射状暗文風ミガキ・口縁部横ミガキ、底部回転糸切り。	ほぼ完形	外面5YR6/6橙色
8	土師器	碗	[15.2]	—	(4.8)	ロクロナデ、内面放射状ミガキ・口縁部横ミガキ、底部回転糸切り、高台欠損。	50	外面5YR5/4にぶい赤褐色
9	土師器	碗	13.1	—	(5.2)	ロクロナデ、内面放射状暗文風ミガキ・口縁部横ミガキ・黒色処理、底部回転糸切り、高台欠損。	口縁部一部欠損	外面7.5YR5/3にぶい褐色
10	土師器	碗	[14.6]	7	5.5	ロクロナデ、内面放射状ミガキ・口縁部横ミガキ、底部回転糸切り後高台貼り付け。	45	外面5YR6/4にぶい橙色
11	土師器	碗	14.9	7.5	5.9	ロクロナデ、内面放射状ミガキ・口縁部横ミガキ、底部回転糸切り後高台貼り付け。	90	外面5YR6/4にぶい褐色
12	土師器	甕	20.8	—	(23.8)	口縁横ナデ、外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	50	外面5YR6/4にぶい褐色
13	土師器	甕	22	—	(18)	口縁横ナデ、外面ヘラケズリ 内面ハケ状工具によるナデ	70	外面5YR5/4にぶい赤褐色
14	土師器	轆轤甕	[18.9]	[5.2]	27.7	口縁・胴上部ロクロナデ、胴下半ヘラケズリ、内面ハケ状工具によるナデ	70	外面5YR5/4にぶい赤褐色
15	石製支脚	重量1,700g 長さ20.6cm 幅8.63cm 厚さ5.82cm				埋め込み部を打ち割った自然石利用。	—	写真図版参照

H 2 号住居址遺物観察表

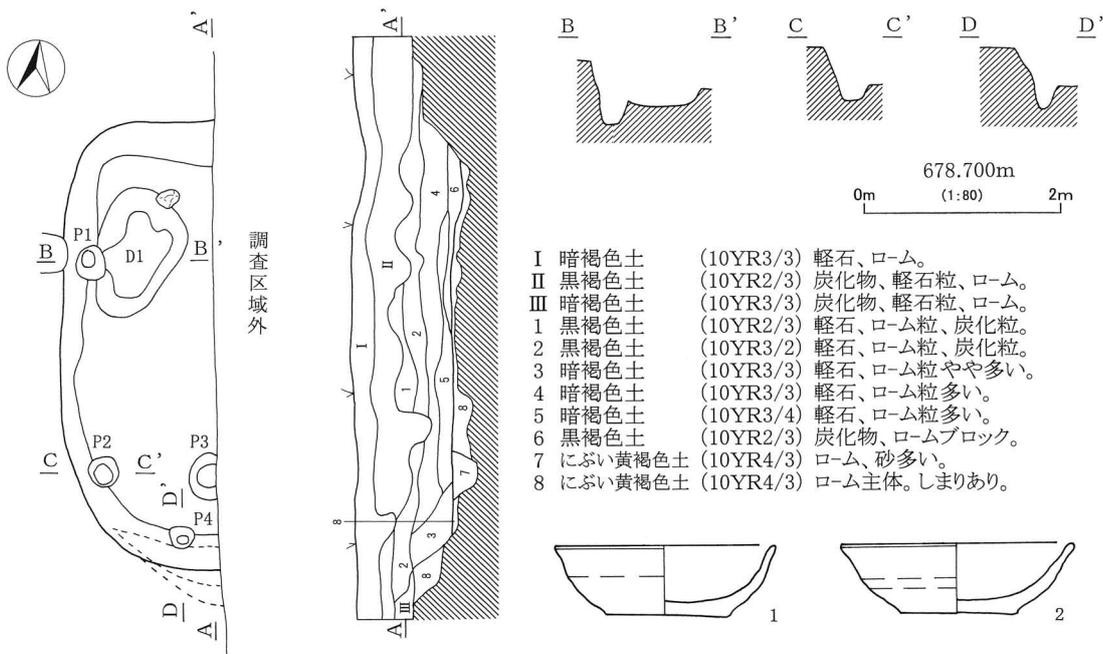
H 3 号住居址

遺構は調査区東端の北側、あー1グリッドに位置し、東側半分は調査区域外となる。調査規模は東西1.6m、南北4.0m、検出面から床面までの深さは45cm内外を測る。床面は壁際の一部を除き土間状の硬質面を持ち、北西コーナー付近に不整形の深さ20cmを測る土坑が存在する。

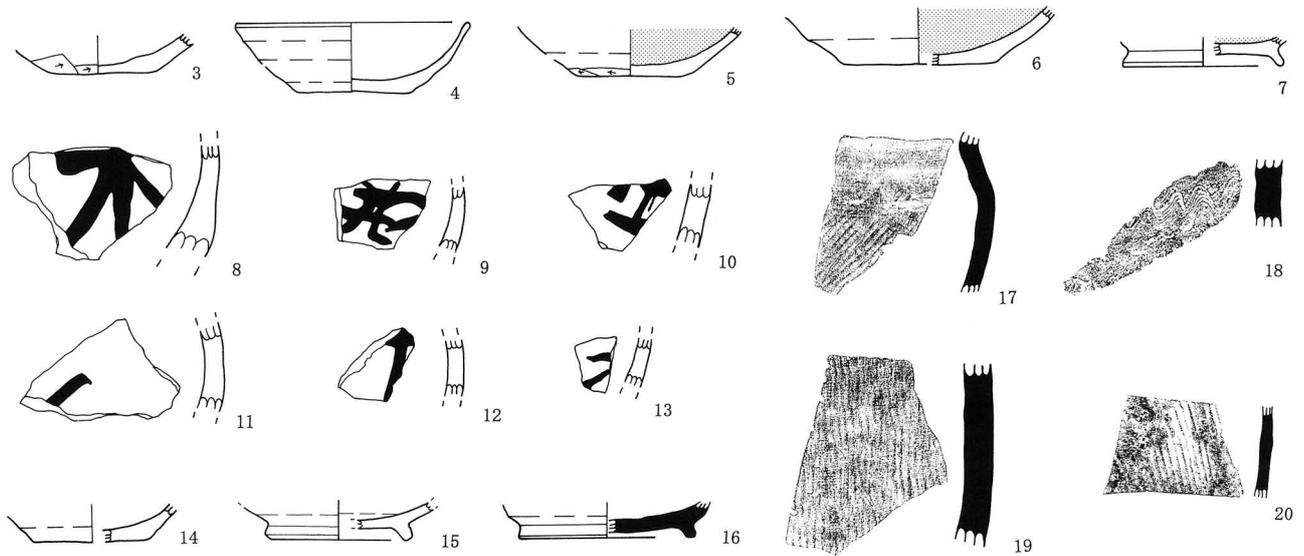
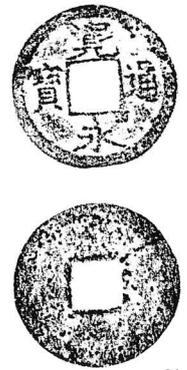
ピットは床面上から4個確認できた。P3が支柱穴、P1・2・4が壁柱穴と考えられる。カマドは本調査区内には存在しなかった。掘方は中央付近は3cm程度と貼り床のみで、壁際は20cm程度と深くなり、貼り床直下にはローム主体の締まりのあるにぶい黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・甕、灰釉陶器の碗が出土した。土師器坏の表面には墨で「木」等の文字が記された墨書土器が出土している。また、混入品として近世の古銭「寛永通宝」が出土した。

本住居址の時期は、土器の特徴から9世紀としたい。



- I 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石、ローム。
- II 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、軽石粒、ローム。
- III 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、軽石粒、ローム。
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 軽石、ローム粒、炭化粒。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石、ローム粒、炭化粒。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石、ローム粒 やや多い。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石、ローム粒 多い。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 軽石、ローム粒 多い。
- 6 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、ロームブロック。
- 7 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム、砂 多い。
- 8 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム 主体。しまりあり。



H 3 号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	杯	[11.6]	6.2	3.7	ロクロナデ、底部回転糸切り。	50	外面7.5YR7/3にぶい橙色
2	土師器	杯	[12]	5.8	3.7	ロクロナデ、底部回転糸切り。	40	外面7.5YR7/3にぶい橙色
3	土師器	杯	—	5.2	(1.5)	ロクロナデ、底部回転糸切り、内面ナデ。	40	外面7.5YR5/8明褐色
4	土師器	杯	[12.2]	5.7	3.6	ロクロナデ、底部回転糸切り、内面ナデ。	50	外面7.5YR6/4にぶい橙色
5	土師器	杯	—	5.6	(2.5)	ロクロナデ、底部回転糸切り、内面黒色処理。	30	外面7.5YR6/4にぶい橙色
6	土師器	杯	—	[7.8]	(3)	ロクロナデ、底部回転糸切り、内面黒色処理。	底部～体部破片	外面5YR6/6橙色
7	土師器	碗	—	[8.4]	(1.5)	底部回転糸切り後高台貼り付け、内面黒色処理。	高台～体部破片	外面7.5YR4/1褐灰色
8	土師器	杯	—	—	—	内面黒色処理、外面墨書「木」？あり。	体部破片	外面7.5YR7/4にぶい橙色
9	土師器	杯	—	—	—	内面黒色処理、外面不明墨書あり。	体部破片	外面7.5YR7/6橙色
10	土師器	杯	—	—	—	内面黒色処理、外面不明墨書あり。	体部破片	外面7.5YR7/6橙色
11	土師器	杯	—	—	—	内面黒色処理、外面不明墨書あり。	体部破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色
12	土師器	杯	—	—	—	内面黒色処理、外面不明墨書あり。	体部破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色
13	土師器	杯	—	—	—	外面不明墨書あり。	体部破片	外面7.5YR8/3浅黄橙色
14	土師器	杯	—	[6]	(1.9)	外面薄い不明墨書あり。	底部～体部破片	外面7.5YR7/4にぶい橙色
15	灰釉陶器	碗	—	[7]	(2)	底部回転糸切り後高台貼り付け。	高台～体部破片	外面7.5Y7/1灰白色

H 3 号住居址遺物観察表

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
16	須恵器	高台付杯	-	[9]	(1.8)	底部回転糸切り後、高台貼り付け。	高台～体部破片	外面10YR4/1褐色灰色
17	須恵器	甕	-	-	-	頸部横ナデ、外面叩き痕、内面ナデ。	頸部～胴部破片	外面7.5Y4/1灰色
18	須恵器	甕	-	-	-	外面櫛描波状文、内面ナデ。	胴部破片	外面N2/1黒色
19	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き、内面ナデ。	胴部破片	外面5YR2/2黒褐色
20	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き、自然釉葉付着。	胴部破片	外面10BG4/1暗青灰色
21	銅製品	古銭	外径2.2cm	内径0.71cm	0.1 cm	表面 寛永通宝、裏面 無文。	完形	混入遺物、重量1.88g

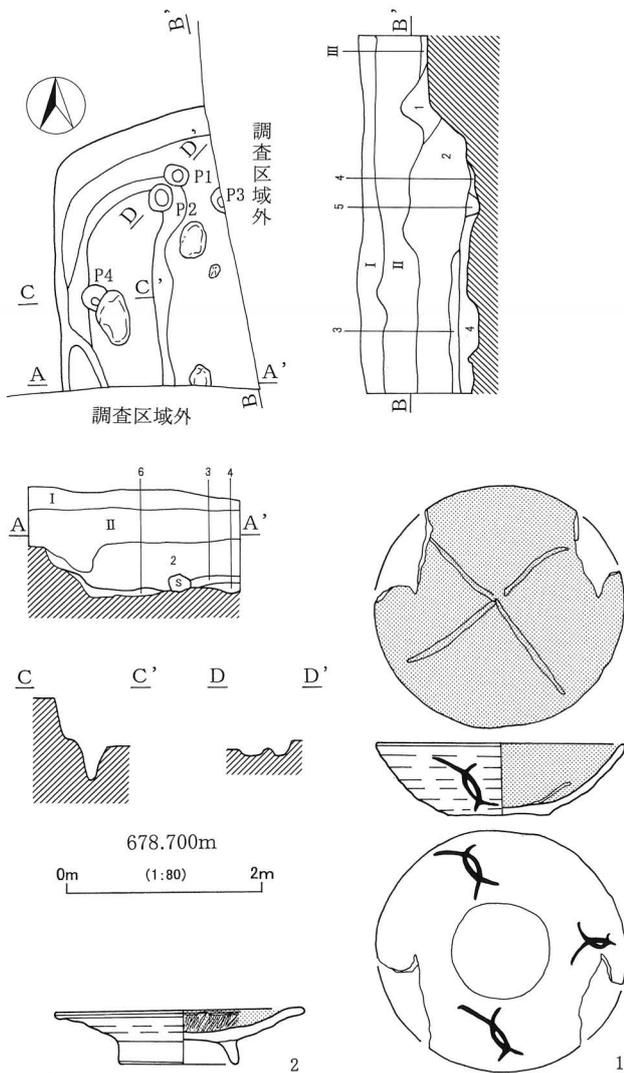
H 3号住居址遺物観察表

H 4号住居址

遺構は調査区南東端の、あー3グリッドに位置し、多くは調査区域外となる。調査規模は東西2.0m、南北3.0m、検出面から床面までの深さは45cm内外を測る。床面は硬く、土間状であり、壁際1mの範囲は中央部分に比べ、床面が5cm程度低くなる。また、本住居址の床面上10cmには粘土・灰・炭化物主体の暗赤褐色土が堆積しており、この土層内には残存率のよい土器が多く含まれていた。このことから、本住居址の調査区域外には多くの土器が埋もれている可能性が伺えた。ピットは深さ10cm、直径20cmほどの小ピットが4個確認できたが、用途は不明である。壁溝及びカマドは確認できなかった。掘方は10～20cmの厚みで焼土・粘土を含む極暗褐色土が埋め込まれていた。

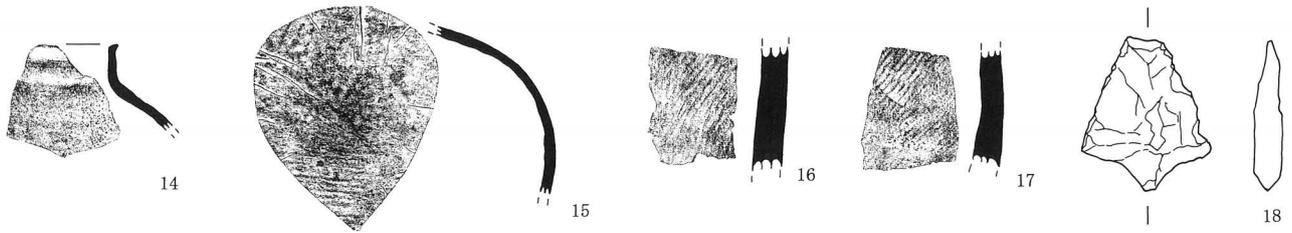
遺物は土師器の坏・碗・皿・甕、須恵器の坏・甕・壺、石鏃が出土した。中には土器の表面に墨で記号の記された墨書土器も出土している。

本住居址の時期は、土器の特徴から9世紀としたい。



- I 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石、ローム。
- II 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物、軽石粒、ローム。
- III 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、軽石粒、ローム。
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム、砂、軽石。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) ローム、砂、軽石。粘土、焼土少量。
- 3 暗赤褐色土 (5YR3/2) 粘土多い。灰、炭化物、ローム、軽石。
- 4 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 粘土、焼土少量。
- 5 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘土、焼土少量。
- 6 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。暗褐色土。

H 4号住居址遺構・遺物実測図



H 4 号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	12.9	5	3.9	ロクロナデ、内面黒色処理+状暗文、外面記号風墨書3箇所あり。	90	外面7.5YR7/4にぶい橙色
2	土師器	皿	13.1	6.3	2.9	ロクロナデ、底部回転糸切り後高台貼り付け、内面黒色処理。	95	外面5YR6/6橙色
3	土師器	坏	16.6	6.4	6	ロクロナデ、底部回転糸切り、内面黒色処理。	90	外面7.5YR7/4にぶい橙色
4	土師器	碗	[12.4]	4.8	<4>	ロクロナデ、底部高台剥がれ、内面黒色処理、放射状の暗文風ミガキ。	20	外面7.5YR7/6橙色
5	土師器	坏	[16]	[7]	4.4	ロクロナデ、底部回転糸切り、内面黒色処理・ミガキ。	25	外面7.5YR7/3にぶい橙色
6	須恵器	坏	14	6.1	3.4	ロクロナデ、底部回転糸切り。	90	外面7.5Y7/1灰白色
7	須恵器	坏	14.2	6.4	4.3	ロクロナデ、底部回転糸切り。	90	外面10Y5/1灰色
8	須恵器	坏	14.2	6.8	3.9	ロクロナデ、底部回転糸切り、内面黒色処理、表面火だすき	85	外面7.5Y5/1灰色
9	須恵器	坏	[14.2]	—	<5.8>	ロクロナデ。	30	外面10Y4/1灰色他
10	須恵器	坏	[13.2]	[4.6]	3.7	ロクロナデ、火だすき。	口縁～体部破片	外面10Y4/1灰色
11	須恵器	高台付坏	[14.6]	[8.2]	4.1	ロクロナデ、火だすき、高台貼り付け。	30	外面N4/0灰色
12	須恵器	高台付坏	—	—	—	ロクロナデ、底部高台貼り付け。	20	外面N6/0灰色
13	須恵器	甕	—	—	—	ロクロナデ、胴部外面平行叩き。	口縁部破片	外面10Y5/1灰色
14	須恵器	壺	—	—	—	ロクロナデ、内外面釉薬付着。NO15と同一固体。	口縁～胴部破片	外面2.5GY4/1暗オリーブ灰色他
15	須恵器	壺	—	—	—	ロクロナデ、外面釉薬付着・平行叩き。NO14と同一固体。	胴部破片	外面2.5GY4/1暗オリーブ灰色他
16	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き。	胴部破片	外面N5/0灰色
17	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き。	胴部破片	外面7.5Y5/1灰色
18	石器	鎌	残存長20cm	最大幅1.68	厚さ0.39	黒曜石製 先端部欠損	—	重量0.97g

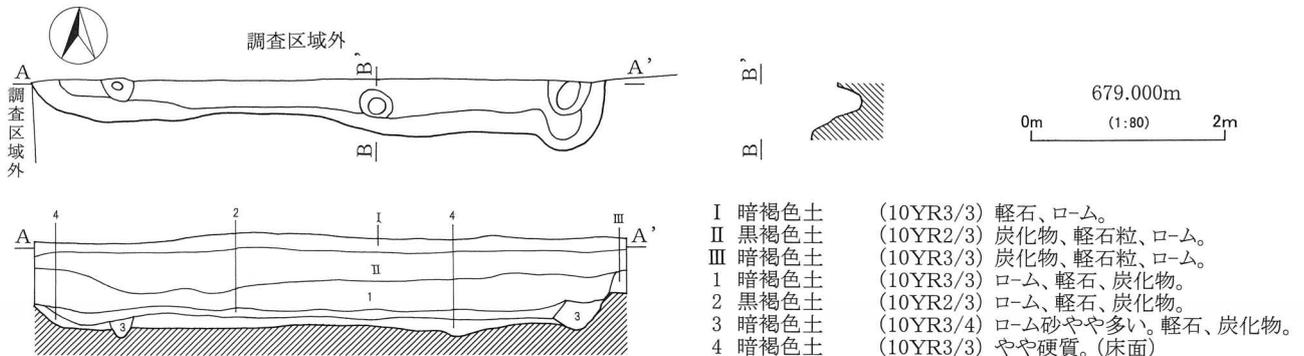
H 4 号住居址遺物観察表

H 5 号住居址

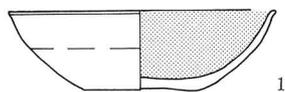
遺構は調査区西の北側、かー1グリッドに位置する。遺構の大半は北側の調査区域外となり、調査できた規模は東西5.6m、南北0.4m、検出面から床面までの深さ30cmの範囲のみである。床面は壁に近いこともあり、やや堅さはあるが、はっきりとした土間状の硬質面は認められなかった。ピットは直径20～30cmの小ピットが3個認められた。位置的に壁柱穴と考えられる。掘方は5cm内外の厚みで、やや堅さを持つ暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕が出土した。

本住居址の時期は、遺物の特徴から9世紀としたい。



H 5 号住居址実測図



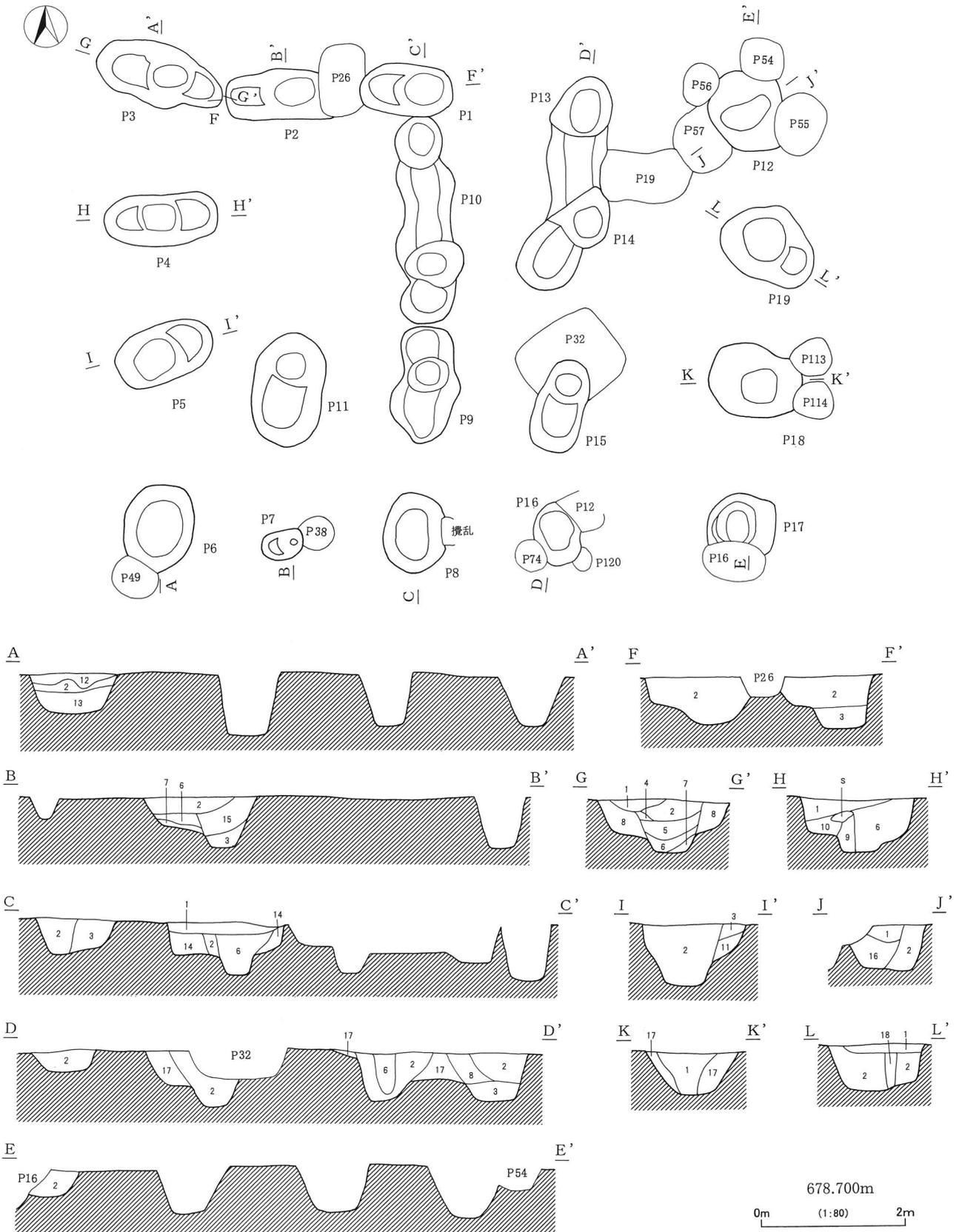
H 5 号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm
1	土師器	坏	14	7.4	4.1
調整・文様			残存率	備考	
ロクロナデ、底部回転糸切り、内面黒色処理			90	外面5YR5/4にぶい赤褐色	

H 5 号住居址遺物観察表

第2節 掘立柱建物址 (F)

F 1号掘立柱建物址



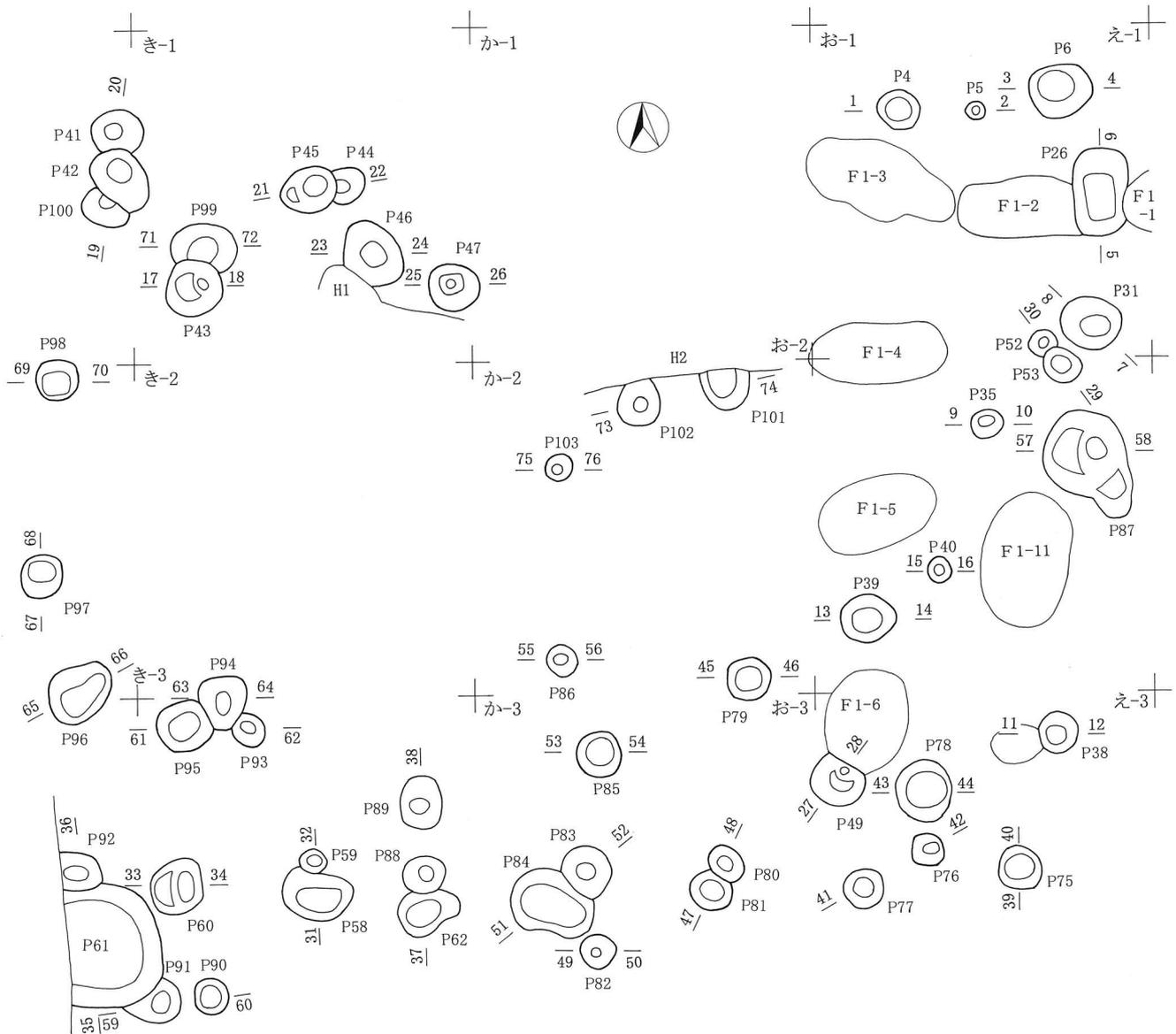
F 1号掘立柱建物址実測図

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、砂粒、炭化物。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、砂、軽石。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム多い。砂、軽石。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 砂多い。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 砂主体。
- 6 黒褐色土 (10YR2/3) ローム、砂。
- 7 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 砂主体。
- 8 黒褐色土 (10YR3/2) 砂多い。
- 9 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック多い。砂、軽石。

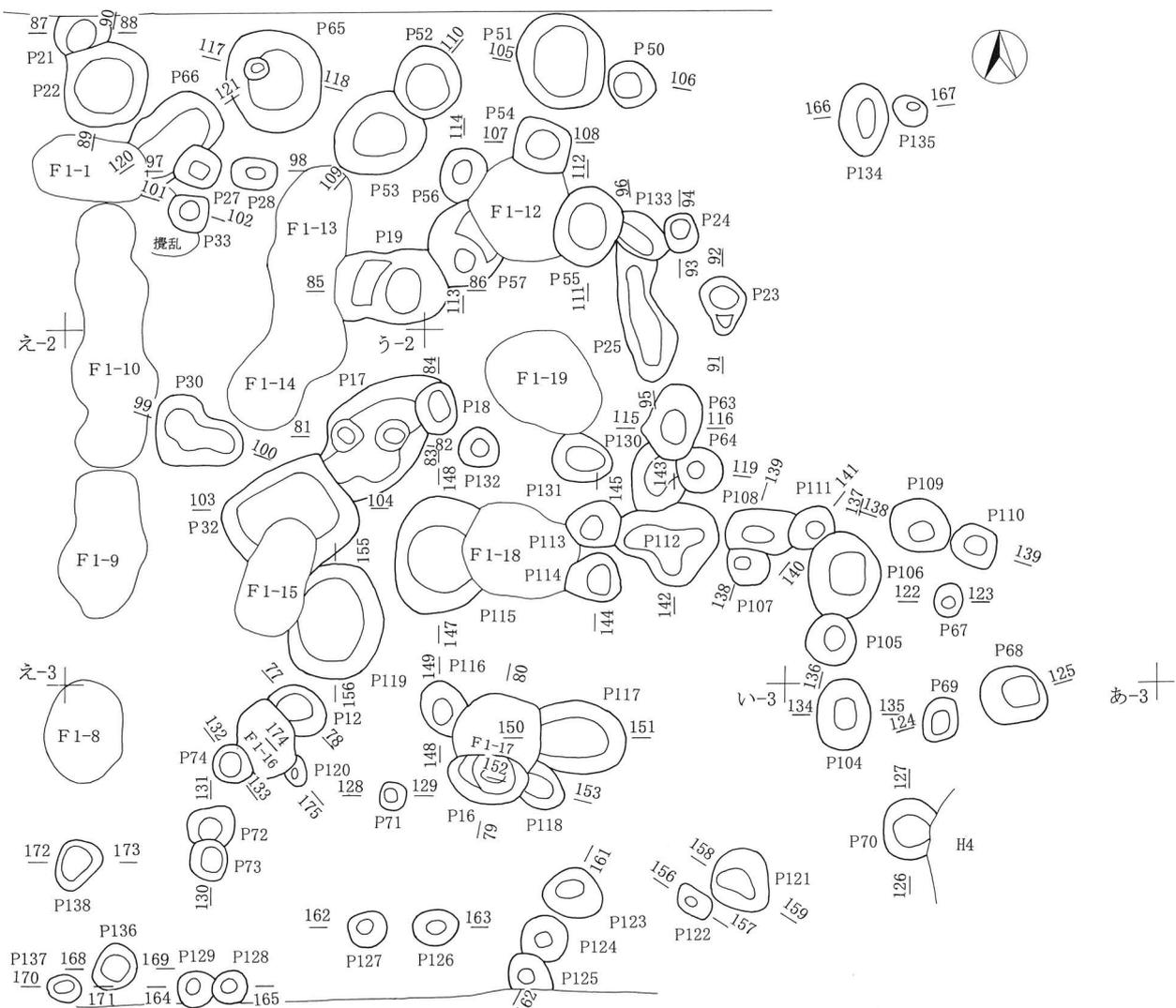
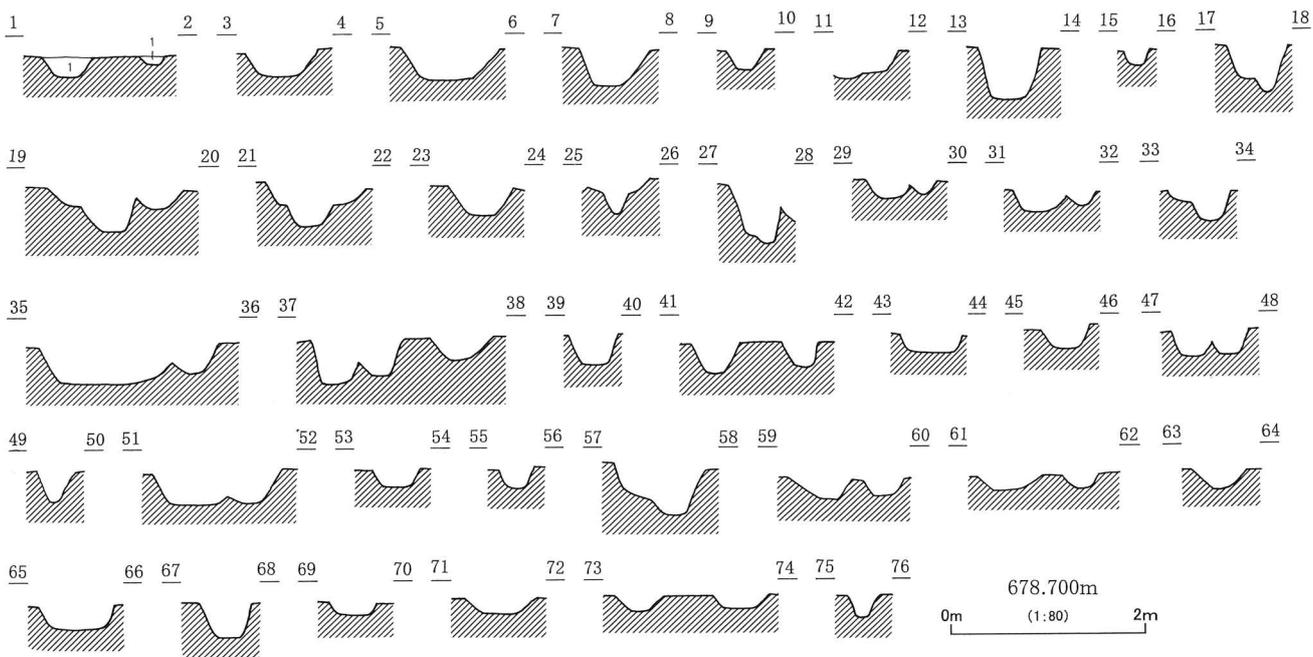
- 10 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック(3>4)、砂、軽石。
- 11 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 砂多い、軽石。
- 12 黒褐色土 (10YR2/3) ローム、軽石。
- 13 暗褐色土 (10YR3/4) ローム主体。暗褐色土含む。
- 14 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム、砂主体、暗褐色土。
- 15 黒褐色土 (10YR3/2) ローム、砂、軽石。
- 16 褐色土 (10YR4/6) ローム主体。暗褐色土、軽石。
- 17 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム主体。暗褐色土、軽石。
- 18 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック多い。

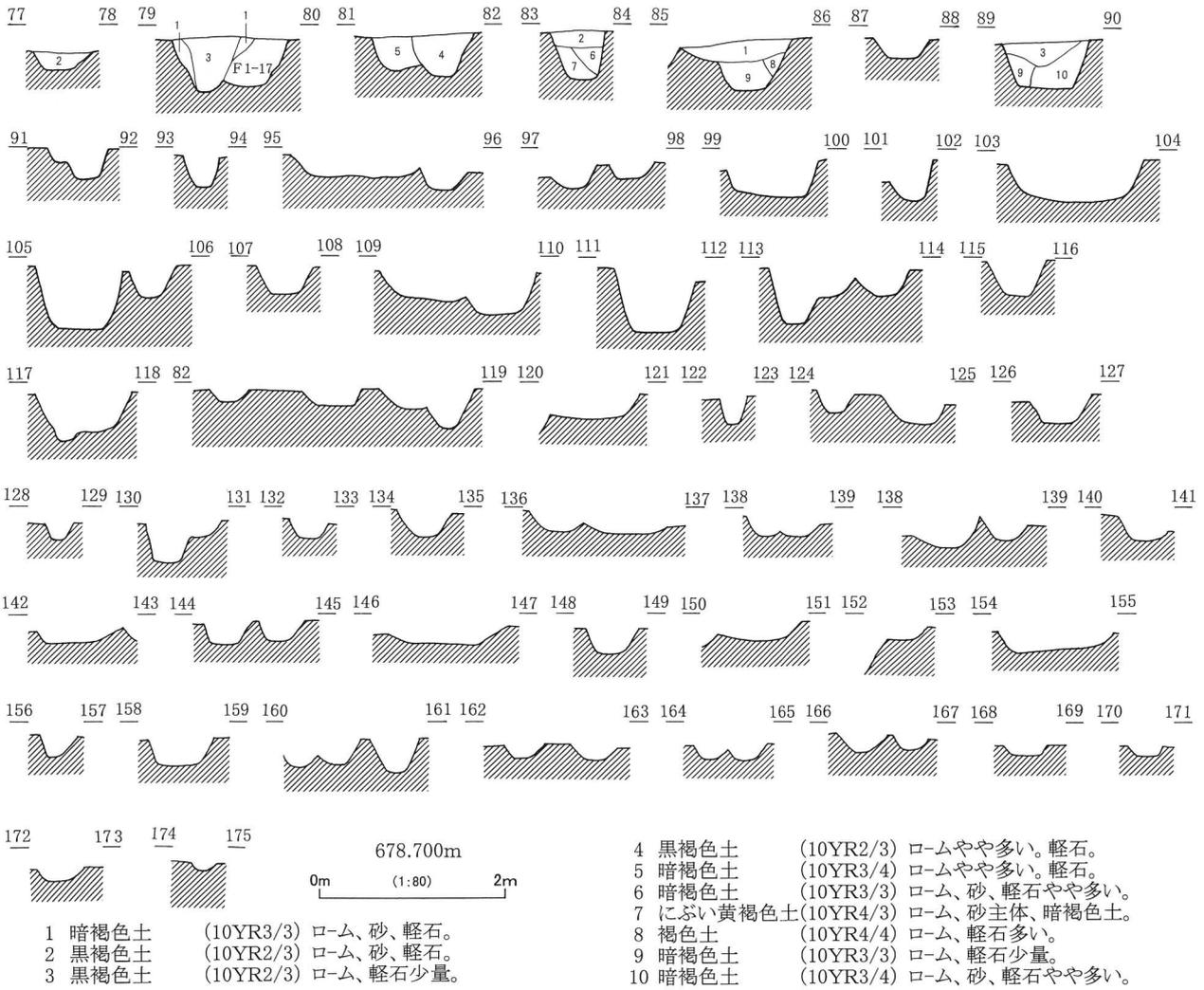
遺構は調査区中央付近、え-2グリッド周辺に位置する。確認できた柱穴は北側4間、南側4間、西側3間、東側3間の19個が認められた。規模は東西8.4m、南北6.8mを測り、やや大型の建物が存在していたと思われる。ピットの形状は楕円形に掘り込み、中央部分を一段深くして柱を埋めたもの、溝状に掘り込み、部分的に深く掘り下げ柱を埋め込んだものなどが認められる。ピットの形状から2棟に分割される可能性も考えられる。遺物はピットの一部から土師器、須恵器の破片が出土した。

第3節 ピット (P)

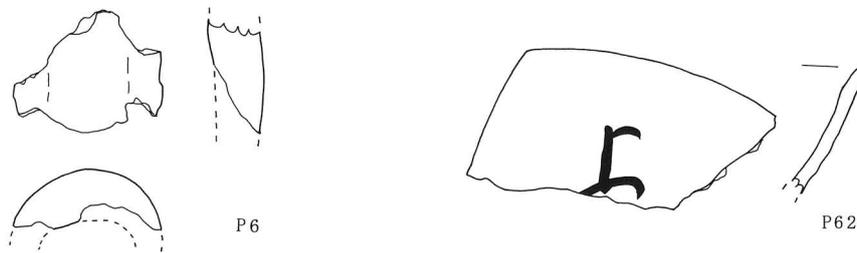


ピット実測図1





ピット実測図 (3)

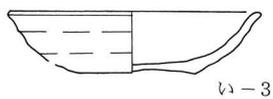


ピット遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
P 6		羽口	-	-	-	一部還元	破片	7.5YR5/2灰褐色他
P62	土師器	坏	-	-	-	ロクロナデ、外面墨書	口縁破片	外面7.5YR7/4にぶい赤褐色

ピット遺物観察表

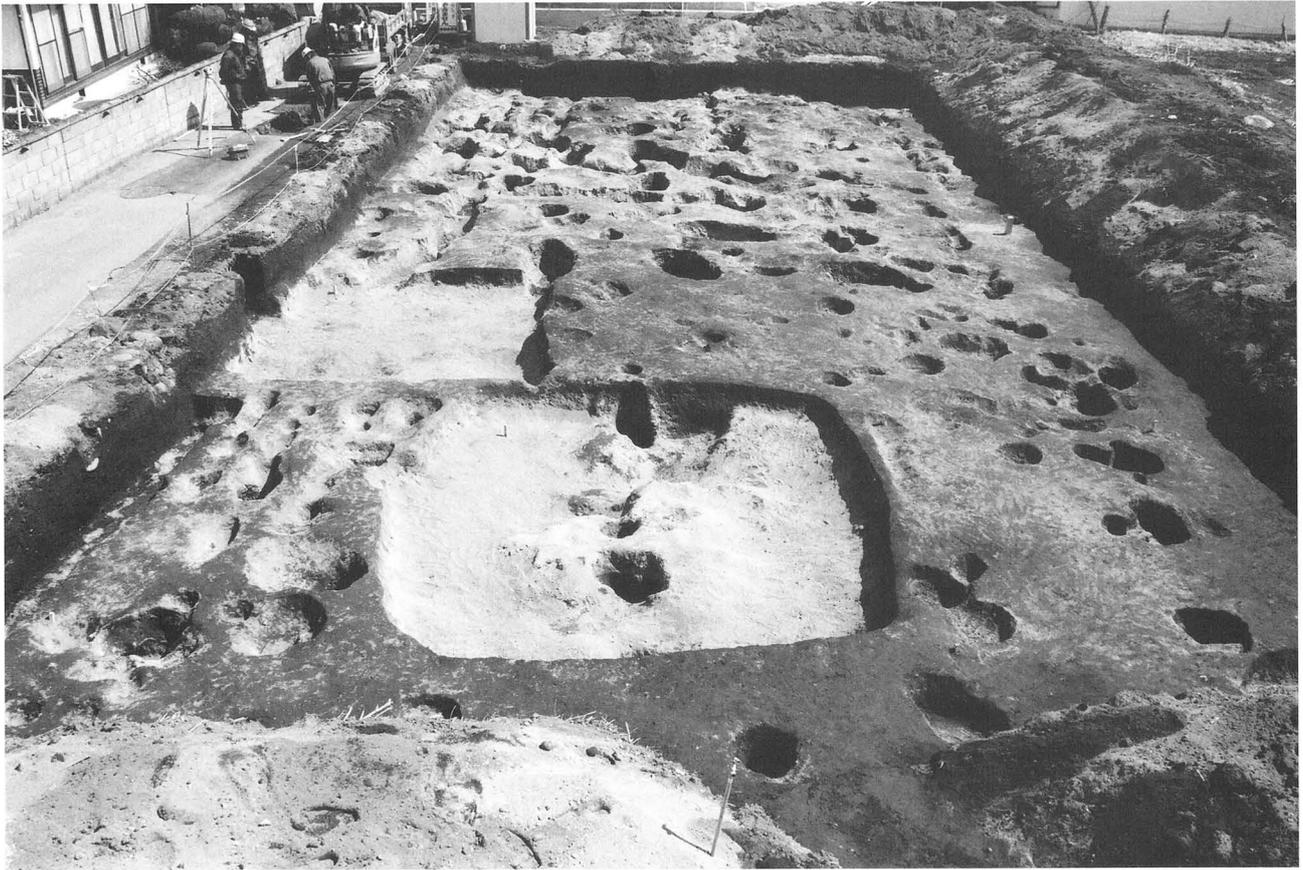
第4節 グリッド



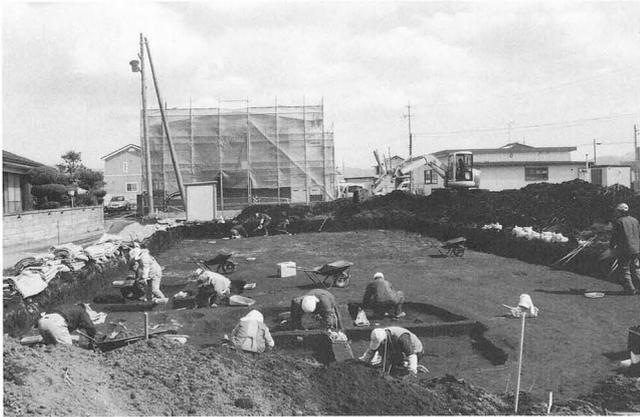
グリッド遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm
い-3	土師器	坏	[12.8]	7.4	3.1
調整・文様			残存率	備考	
ロクロナデ、底部回転糸切り			60	外面5YR5/4にぶい赤褐色	

グリッド遺物観察表



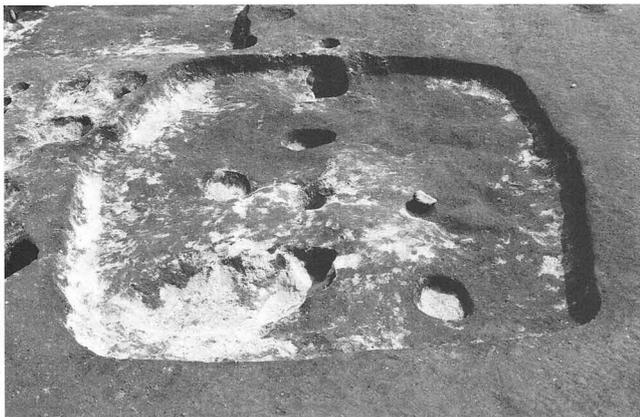
宮の上遺跡群 宮の上遺跡Ⅲ・Ⅳ調査区全景（西から）



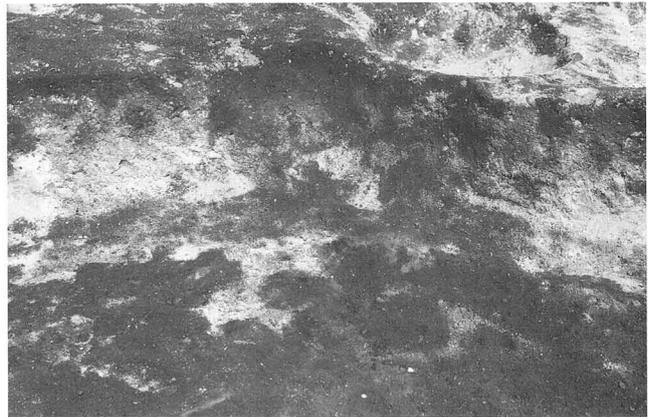
調査風景 1（西から）



調査風景 2（北西から）



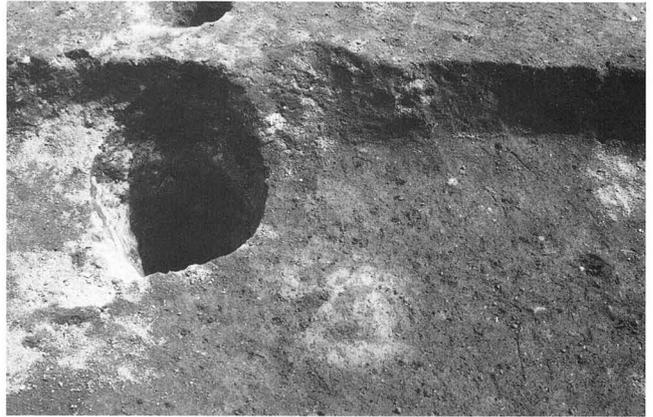
H1号住居址全景（西から）



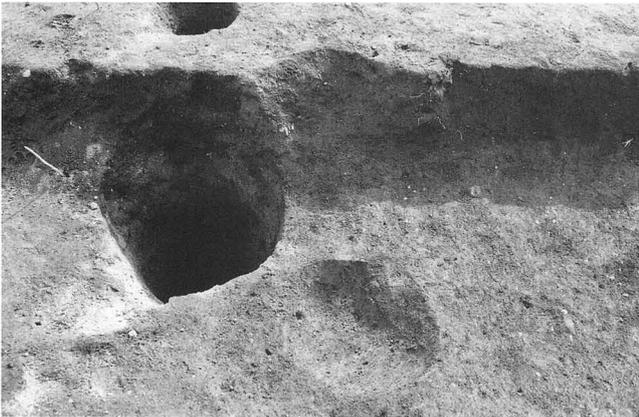
H1号住居址北カマド全景（南から）



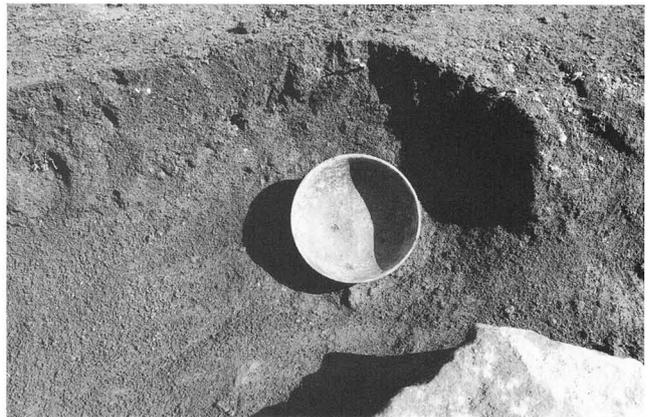
H 1 号住居址北カマド掘方全景（南から）



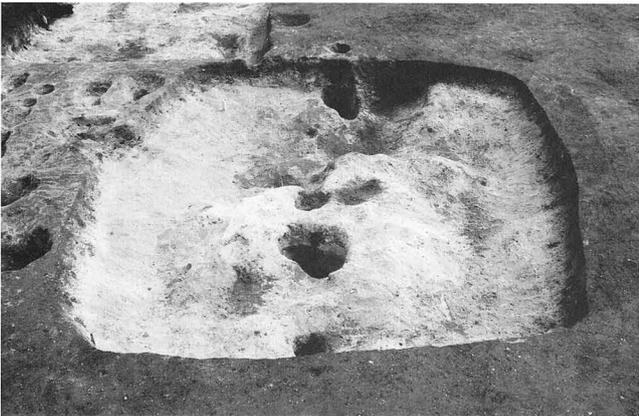
H 1 号住居址東カマド全景（西から）



H 1 号住居址東カマド掘方全景（西から）



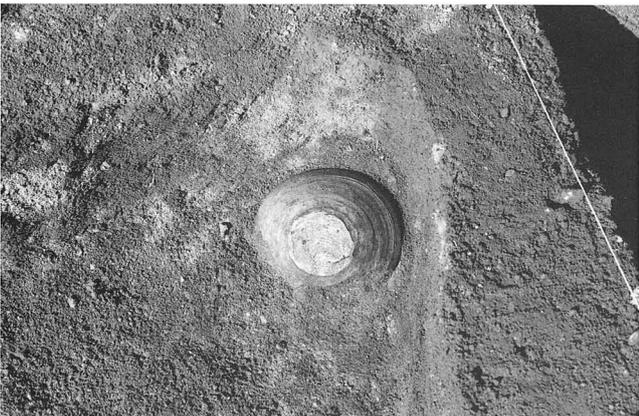
H 1 号住居址遺物出土状況（写真図版 NO1）



H 1 号住居址掘方全景（西から）



H 2 号住居址全景（南から）



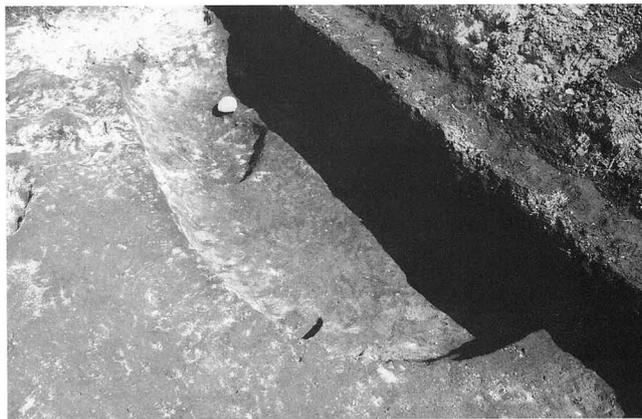
H 2 号住居址遺物出土状況（図版 NO2）



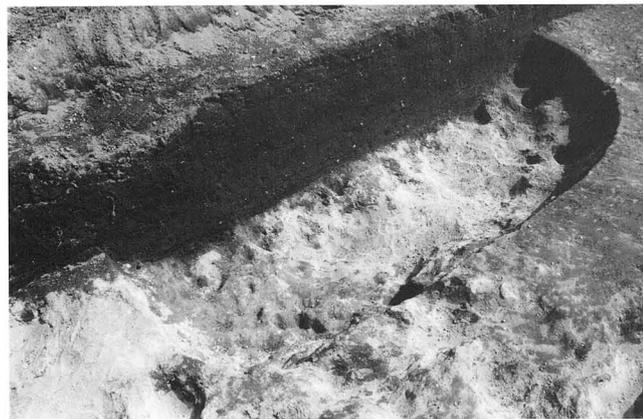
H 2 号住居址カマド全景（南から）



H 2 号住居址掘方全景（東から）



H 3 号住居址全景（南西から）



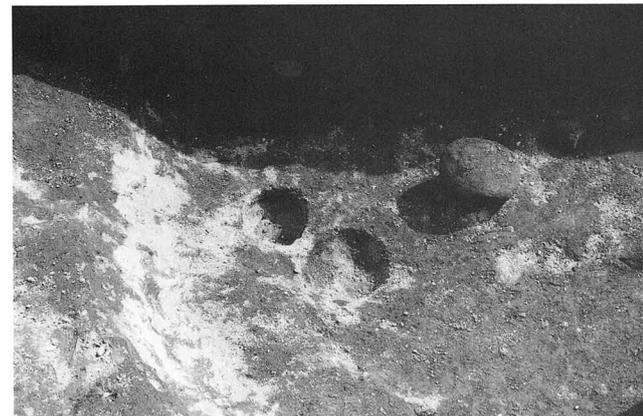
H 3 号住居址掘方全景（北西から）



H 4 号住居址全景（北西から）



H 4 号住居址掘方全景（西から）



H 4 号住居址ピット



H 5 号住居址全景（西から）



F 1 号掘立柱建物址・周辺ピット



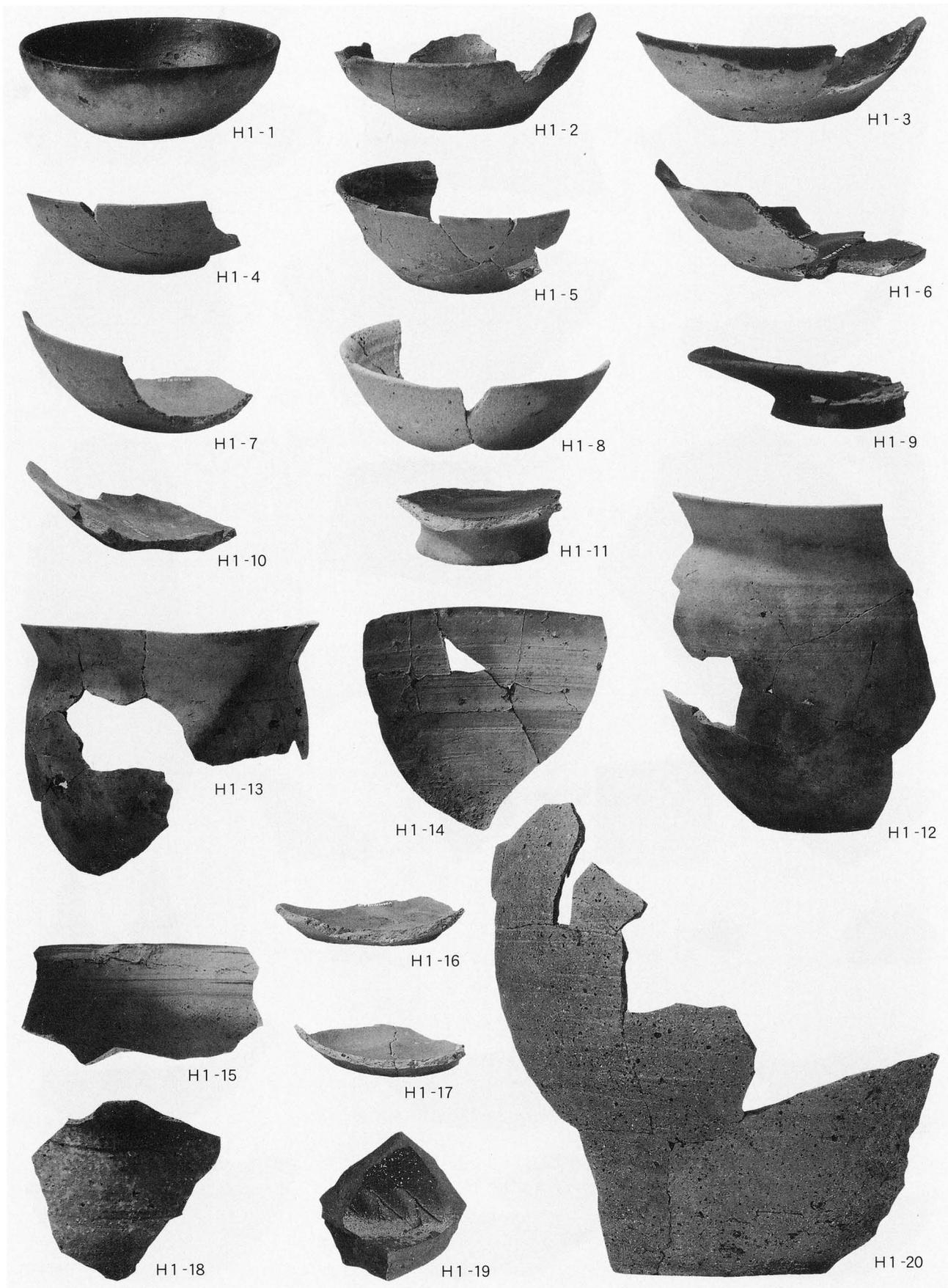
F 1 号掘立柱建物址西側ピット周辺



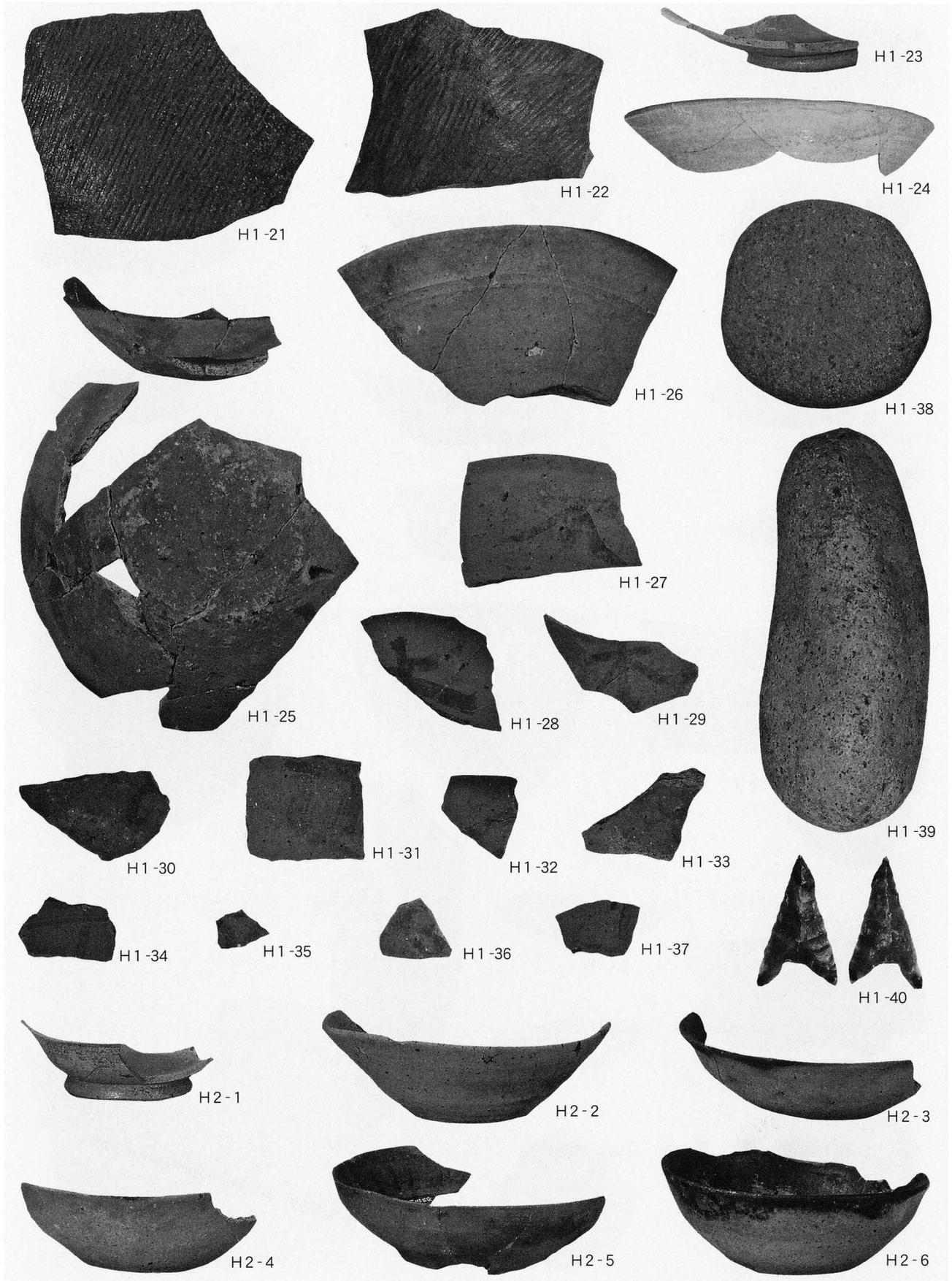
F 1 号掘立柱建物址東側ピット周辺



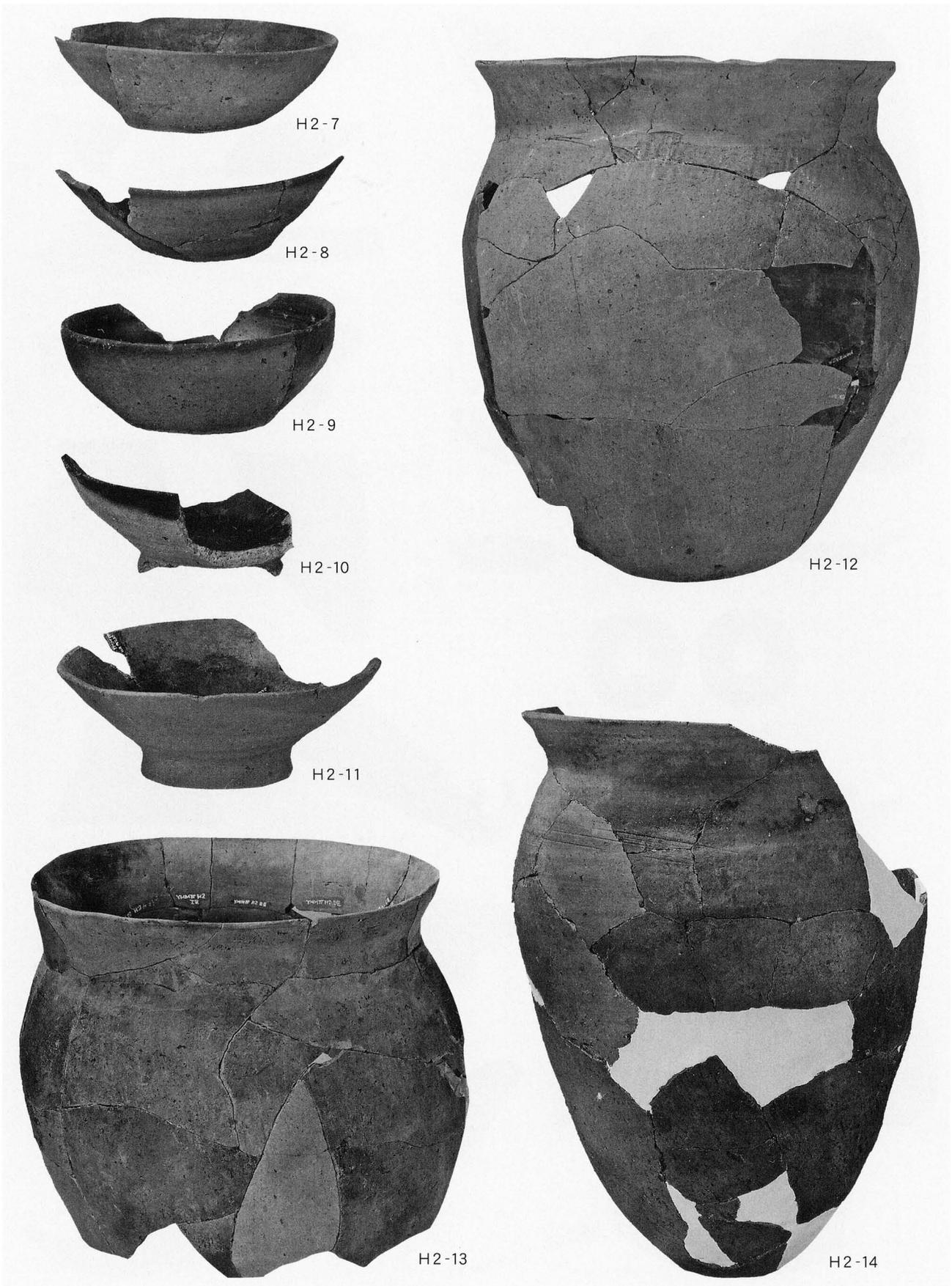
F 1 号掘立柱建物址北側ピット周辺



H1号住居址出土遺物



H1、2号住居址出土遺物

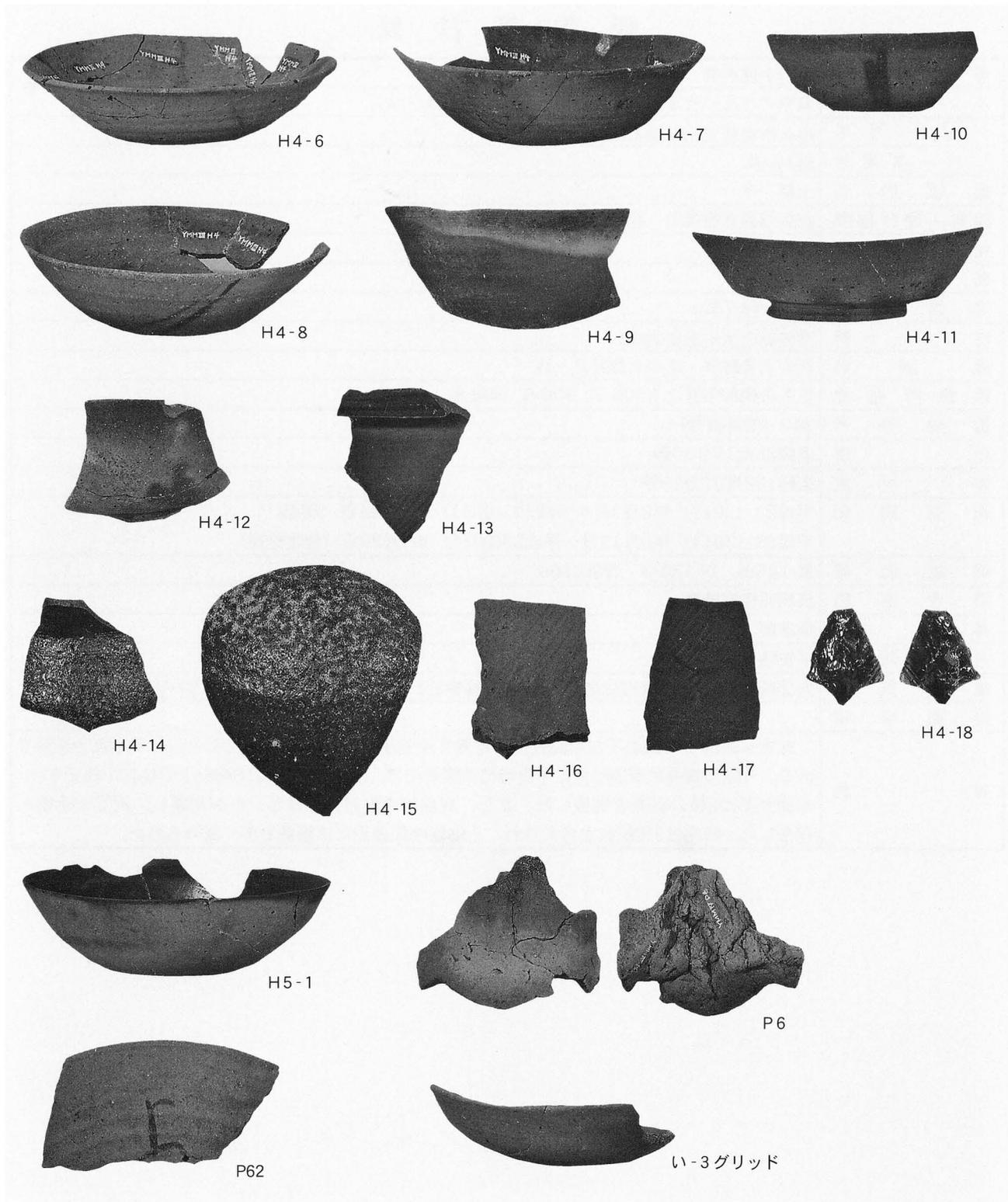


H 2 号住居址出土遺物

图版八



H 2、3、4号住居址出土遺物



H4、5号住居址、ピット、グリッド出土遺物

報 告 書 抄 録

書 名	宮の上遺跡群 宮の上遺跡Ⅲ・Ⅳ
ふ り が な	みやのうえいせきぐん みやのうえいせきさん・よん
シ リ ー ズ 名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第195集
編 著 者 名	上原 学
編 集 ・ 発 行 機 関	佐久市教育委員会 社会教育部 文化財課
発 行 年 月 日	2011.9
郵 便 番 号	385-0006
電 話 番 号	0267-68-7321
住 所	長野県佐久市志賀5953
遺 跡 名	宮の上遺跡群 宮の上遺跡Ⅲ・Ⅳ
遺 跡 所 在 地	佐久市横和字宮之上306-7、306-6、306-8
遺 跡 番 号	240 (遺跡番号)
経 度	北緯36度15分20秒
緯 度	東経138度27分23秒
調 査 期 間	平成23 (2011) 年3月3日～平成23 (2011) 年3月25日 (現場) 平成23 (2011) 年5月13日～平成23(2011) 年9月30日 (整理作業)
調 査 面 積	Ⅲ-135㎡ Ⅳ-135㎡ 合計270㎡
調 査 原 因	長屋建住宅建築
種 別	集落跡
主 な 時 代	平安時代
遺 跡 概 要	集落跡-平安+近世-竪穴住居址5+掘立柱建物址1+ピット-土器+石製品+石器+古銭
特 記 事 項	
要 約	北方を西流する湯川の左岸段丘上に位置する弥生時代から平安時代を中心とする複合遺跡である。今回の調査区周辺は主に平安時代の集落跡で、試掘調査では10棟以上の住居が確認され、本調査では5棟の調査を実施した。また、対象地中央付近にはピットが密集し、掘立柱建物も存在した。時期は9世紀代と考えられ、土師器の坏表面には墨書も多く認められた。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第195集
宮の上遺跡群 宮の上遺跡Ⅲ・Ⅳ
2011年9月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
TEL 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限公司
